

第3次江南市生涯学習基本計画（案）

令和7年3月

江南市

目次

第1章 生涯学習基本計画策定にあたって	1
1 計画策定の目的	1
2 生涯学習とは	2
3 生涯学習の必要性	2
4 計画の位置づけ	3
5 計画の期間	4
6 生涯学習とSDGs	4
7 国の動向	5
8 愛知県の動向	6
第2章 江南市の生涯学習の現状と課題	7
1 アンケート調査などによる現状の整理	7
2 現状における課題	13
第3章 基本理念と基本目標	15
1 基本理念	15
2 基本目標	16
3 施策の体系	17
第4章 基本計画	18
基本目標1 みんなでつくる生涯学習	18
基本目標2 いつでもどこでも学べる生涯学習情報の提供、環境の整備	24
基本目標3 だれでも学べる生涯学習	29
第5章 計画推進に向けて	39
1 計画の推進体制	39
2 計画推進に向けての連携	40

参考資料	41
1 計画策定の経緯	41
2 江南市生涯学習懇話会設置要綱	43
3 江南市生涯学習懇話会名簿	45
4 江南市生涯学習推進委員会設置要綱	47
5 アンケート調査の概要及び結果	49
6 グループヒアリング調査の概要及び結果	63

第1章 生涯学習基本計画策定にあたって

1 計画策定の目的

近年は、少子高齢化、人口減少の進行、国際化、情報化の進展、環境問題の深刻化、新型コロナウイルス感染症による新たな生活様式への対応など、私達を取り巻く生活環境は大きく変化しています。また、高齢者や女性の就業者も増え、年齢や性別に関わらずだれもが自分らしく生きることが尊重される社会となっています。そして価値観は多様化し、一人ひとりが様々な課題に積極的に対応しながら生きていくことが求められています。自分らしさが尊重される社会の中で、余暇や、休日の過ごし方を重要視する傾向があり、人生を豊かにするための多様な生涯学習のニーズも高まっています。

江南市では、平成14年（2002年）3月に「教養を深め、文化の高いまち」の実現に向け、生涯学習社会の構築を進めるための指針となる「江南市生涯学習基本計画」を策定しました。その後、平成24年（2012年）3月には「第2次江南市生涯学習基本計画」を策定し、継続して生涯学習施策の推進に取り組んできました。

本計画は、現在の社会の課題や市民の多様なニーズに応えるため、生涯学習活動の有効かつ効果的な推進を図るためのガイドラインを示すものであり、様々な分野にわたる事業を総合かつ体系的に捉え、だれもがあらゆる機会、場所において学習することができ、その成果を生かすことのできる、生涯学習社会の実現を目指していくことを目的とします。

2 生涯学習とは

生涯学習とは、市民一人ひとりが興味や生きがいを感じる学習の素材を自由な意思で選択し、学習形態にとらわれずに、人生を豊かにするために学ぶ活動（学習活動）です。

つまり、社会教育、学校教育、家庭教育の学習活動を含み、子どもから大人まで将来にわたり、生活していくために必要な知識や技術の習得、さらには趣味や文化活動、スポーツ、レクリエーション、ボランティアなど自らの目的に応じて、自主的な意志に基づき行うさまざまな学習活動をいいます。

また、学習活動を行った結果、その成果が身に付き、その成果を発表したり伝えたりすることにより、地域活動やボランティア活動、まちづくり活動へとつながる学習活動として捉えることができます。

3 生涯学習の必要性

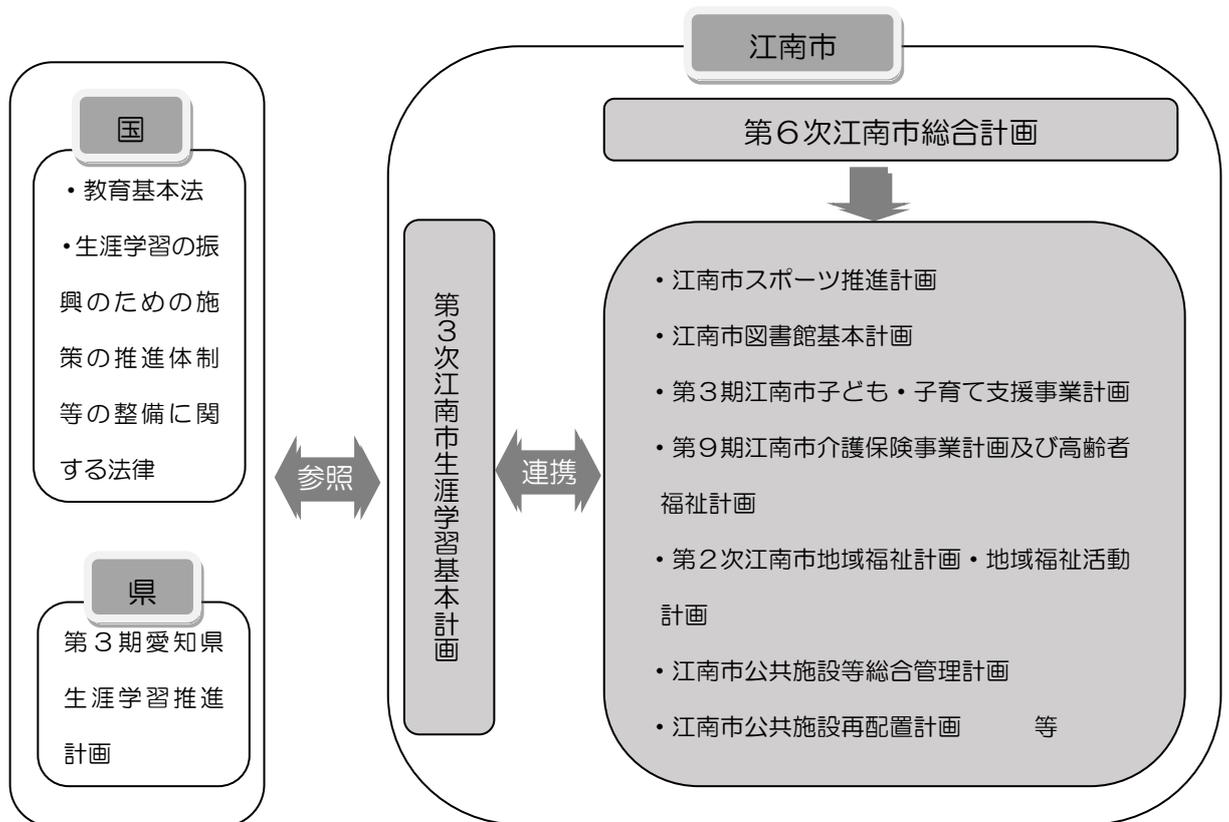
人々は物質的な豊かさに加え、精神的な豊かさを求め一人ひとりが生きがいをもった有意義な人生を送ることが重要視されています。

一方で、変化の激しい現在の社会情勢において、これまでの価値観や生活様式も日々大きく変貌しています。ボランティア活動やまちづくり、地域の活性化などに多くの市民が携わっていたり、自己実現や生活の質の向上を図ろうとする場合、常に時代に沿った新しい知識や技術を主体的に習得していくことが求められています。

各個人が社会の変化に応じ、生涯にわたり、より豊かで充実した生きがいのある人生を送るため、学び続けることができる環境づくりが必要とされています。

4 計画の位置づけ

本計画は、「第6次江南市総合計画」を上位計画とし、スポーツ、児童、福祉をはじめ、多岐の分野にわたる計画であり、各々の分野での施策の基本方針との連携を図っていくものです。また、子どもの読書活動の推進を、市全体の生涯学習活動と一体的に調和する必要があることから、子ども読書活動推進計画を統合しました。



教育基本法

(生涯学習の理念)

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

5 計画の期間

「江南市生涯学習基本計画」の計画期間は、令和7年度（2025年度）を初年度とし、令和16年度（2034年度）までの10年間とします。また、社会情勢や市民のニーズの変化などに対応するため、必要に応じて見直しを図ります。

計画の期間

計画名	年度												
	R6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
第6次江南市総合計画	後期計画期間												
第3次江南市生涯学習基本計画		計画期間											

6 生涯学習とSDGs

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、平成27年（2015年）9月の国連サミットにおいて全会一致でSDGs（持続可能な開発目標）が採択されました。令和12年（2030年）を年限とする17の目標を掲げ、日本においても積極的に取り組んでいます。

本計画においても、施策体系とSDGsとの関連性を明確にすることにより、SDGsの推進を通じた生涯学習社会の実現を目指します。

SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標



7 国の動向

平成18年（2006年）に教育基本法が改正され、その中で示された理念の実現と教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、平成20年（2008年）に「教育振興基本計画（第1期）」が策定されました。令和5年（2023年）に策定された「教育振興基本計画（第4期）」において、今後の教育政策に関する基本的な方針として以下の5点が示され、その取り組みが進められています。

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

8 愛知県の動向

愛知県においては、平成25年（2013年）3月に「生涯学習基本計画」が策定され、平成30年（2018年）3月に「第2期生涯学習推進計画」を策定、令和5年（2023年）3月には「あいち学び未来応援プラン2027（第3期生涯学習推進計画）」が策定されました。「自己を高め、地域とつながり、未来を築く生涯学習社会」の実現を目指し、だれもが、いつでも、どこでも、だれとでも、自分らしく学ぶことができ、だれ一人取り残されず、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる「ウェルビーイング」を実現させる未来が望まれ、生涯学習施策が展開されています。

【基本理念を実現するための3本の柱】

第1の柱 自己を高め、豊かに生きる生涯学習

第2の柱 人をつなぎ、地域をつくる生涯学習

第3の柱 未来を築く生涯学習

第2章 江南市の生涯学習の現状と課題

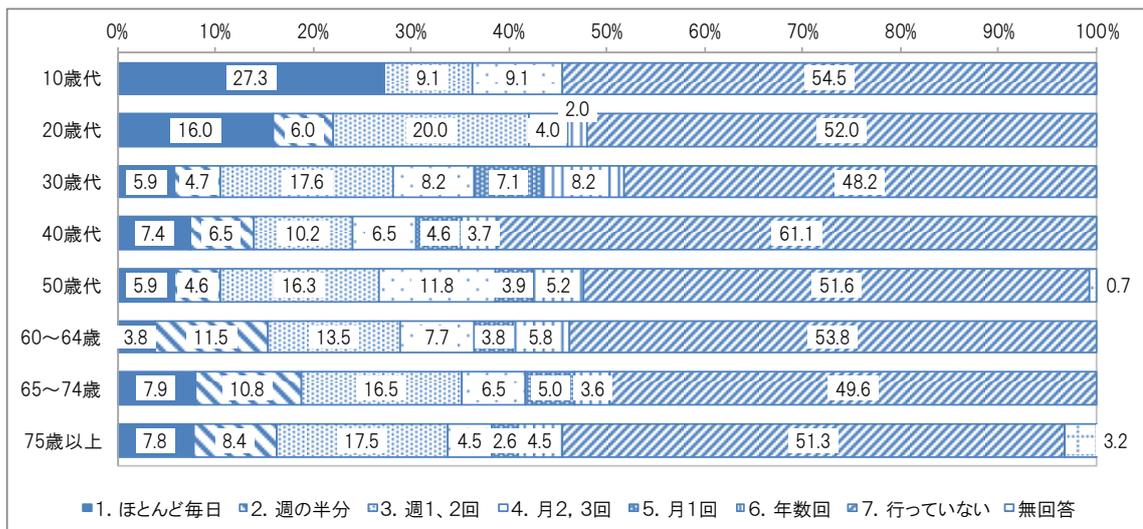
1 アンケート調査などによる現状の整理

(1) 生涯学習の実施状況について

「ほとんど毎日生涯学習を行っている」と回答した割合は10歳代が27.3%と最も高く、「生涯学習を行っていない」と回答した割合は、40歳代が61.1%と最も高いです。どの年代においても、約半数は生涯学習を行っていません。

生涯学習を実施していない人のうち、生涯学習を行わない理由について、「仕事や家事が忙しく、時間がない」と回答した割合が43.2%と最も高く、忙しい世代が生涯学習を行うためには、新たな方法を考える必要があります。

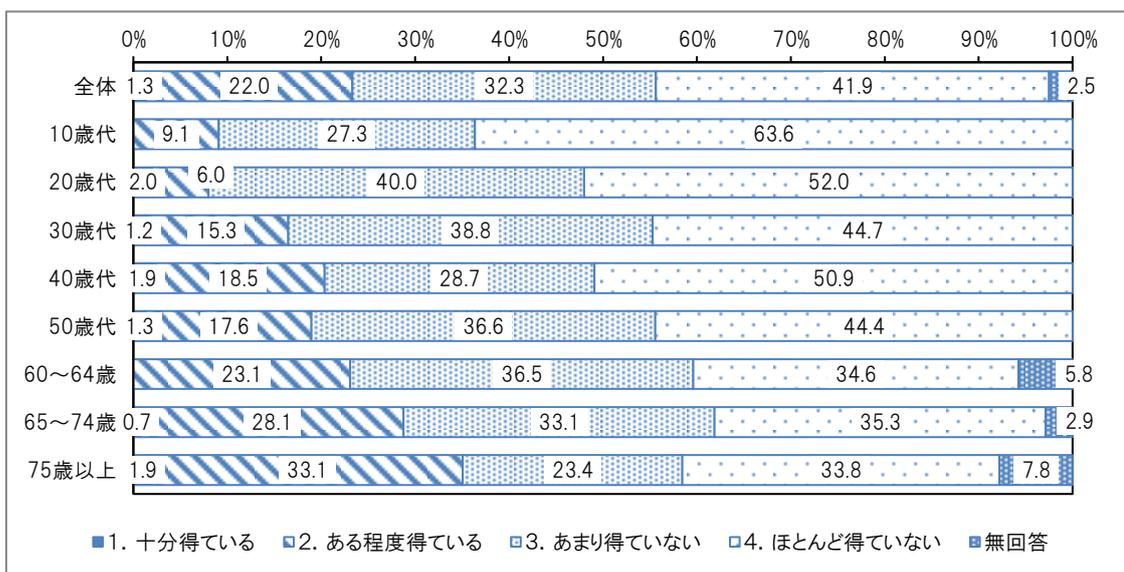
生涯学習の実施状況（江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月）



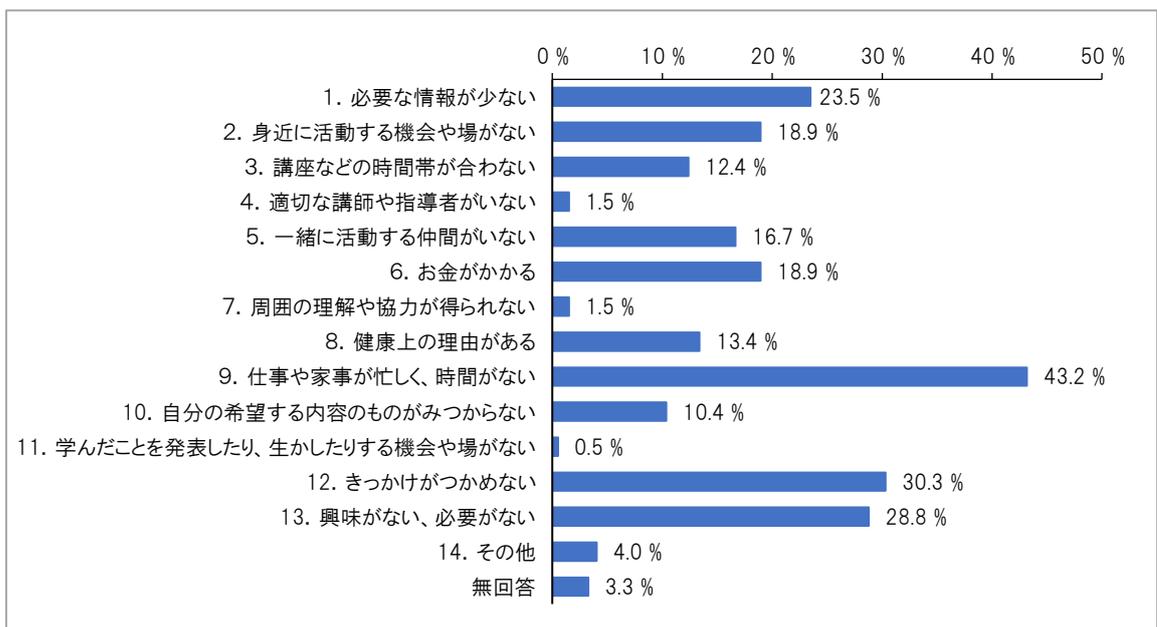
(2) 生涯学習に関する情報の入手状況について

「十分得ている」「ある程度得ている」と回答した割合は全体で23.3%です。特に10歳代、20歳代が情報を得ていないと回答した割合が高いことがわかります。生涯学習を行わない理由について、「必要な情報が少ない」と回答した割合は23.5%であり、生涯学習活動の情報を提供する方法が課題です。

生涯学習に関する情報の入手（江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月）



生涯学習を行わなかった理由（江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月）

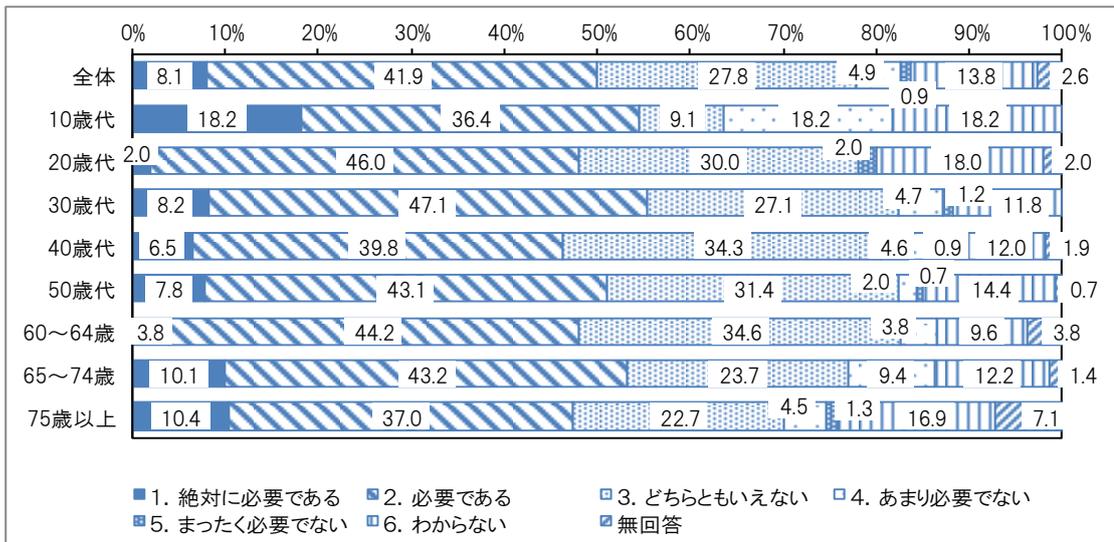


(3) 生涯学習活動の必要意識と活動意欲について

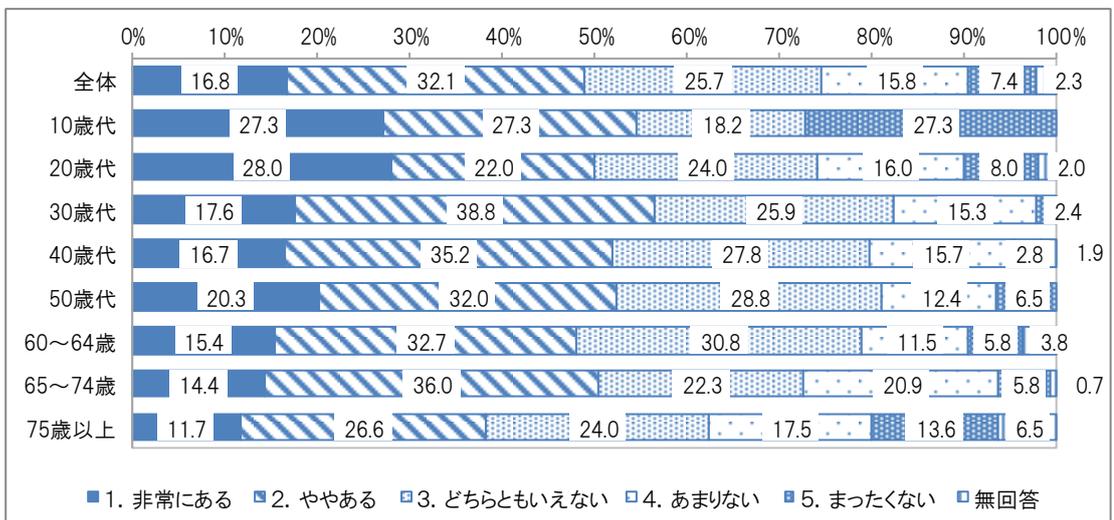
生涯学習活動の必要意識をみると、「絶対に必要である」「必要である」と回答した割合は全体で 50.0%です。全世代において必要と感じている割合に差はほとんどありませんでした。

生涯学習活動を行う意欲をみると、「非常にある」「ややある」と回答した割合は全体で 48.9%です。10 歳代から 74 歳までは、意欲がある割合に差はほとんどありませんが、75 歳以上で意欲は低下していることがわかります。意欲があるのに現在生涯学習活動を行わない理由としては、「仕事や家事が忙しく、時間がない」が最も高く 54.6%であり、次に「きっかけがつかめない」で 33.3%です。意識が行動に無理なくシフトできる環境構築が必要です。

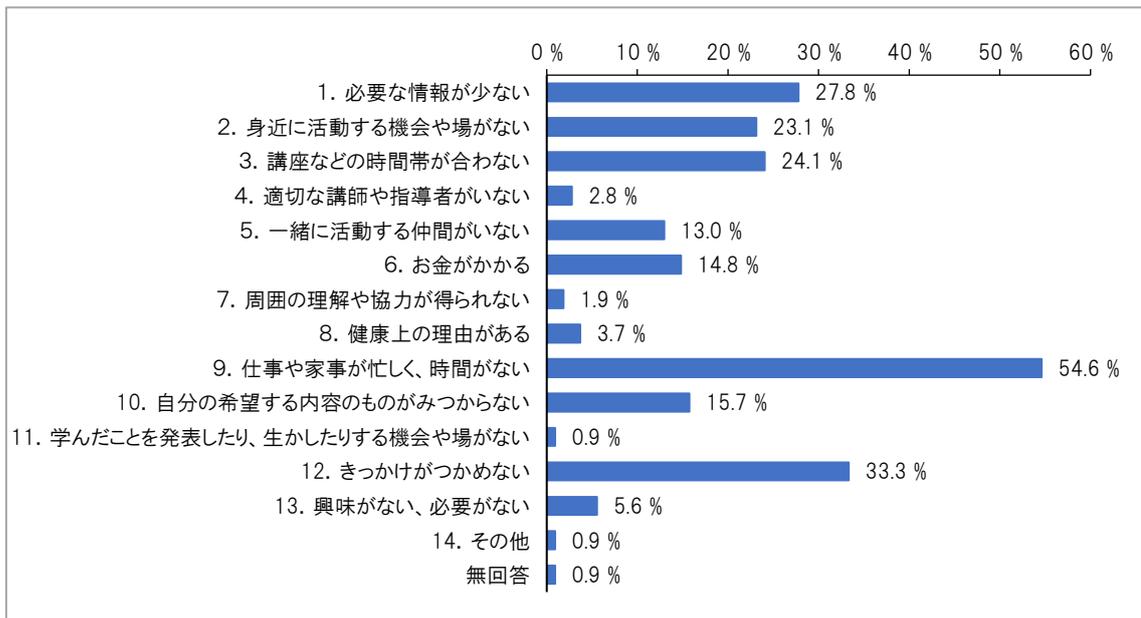
生涯学習活動の必要意識（江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月）



生涯学習活動への意欲（江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月）



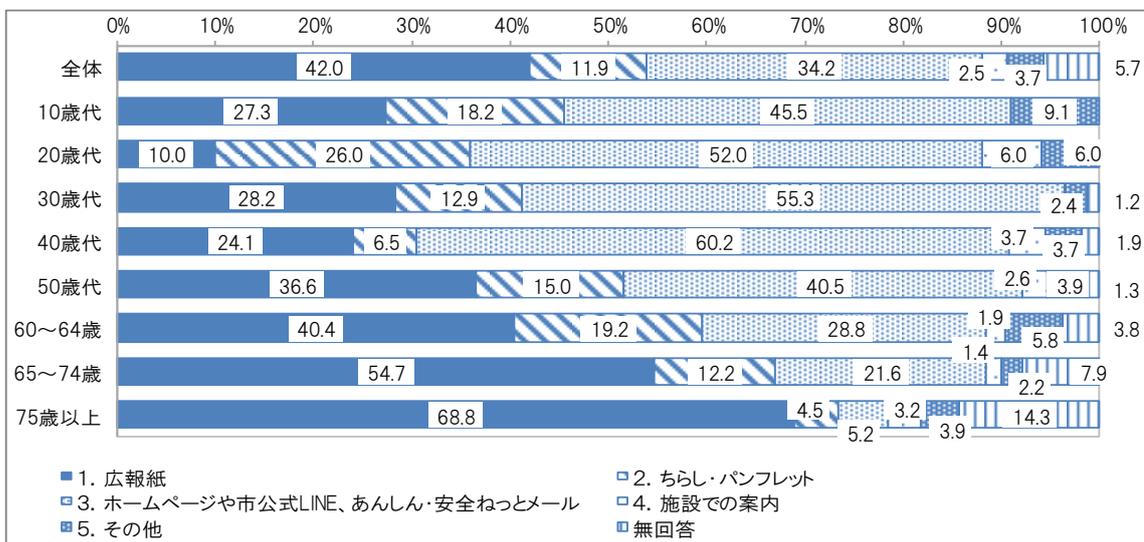
生涯学習活動への意欲はあるが、現在は生涯学習活動を行っていない理由
 (江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月)



(4) 生涯学習に関する情報を得るため充実させる手段について

生涯学習に関する情報を得るために、今後、何を充実させるとよいかについて、10歳代から40歳代までは、「ホームページや市公式LINE、あんしん・安全ねっとメール」と回答した割合が高く、50歳代以降は「広報紙」と回答した割合が高くなっています。しかし、10歳代のうち27.3%は「広報紙」と回答していることから、今後、様々な媒体を効果的に組み合わせながら、生涯学習を必要としている人へ、より効果的に情報を届ける工夫が必要となります。

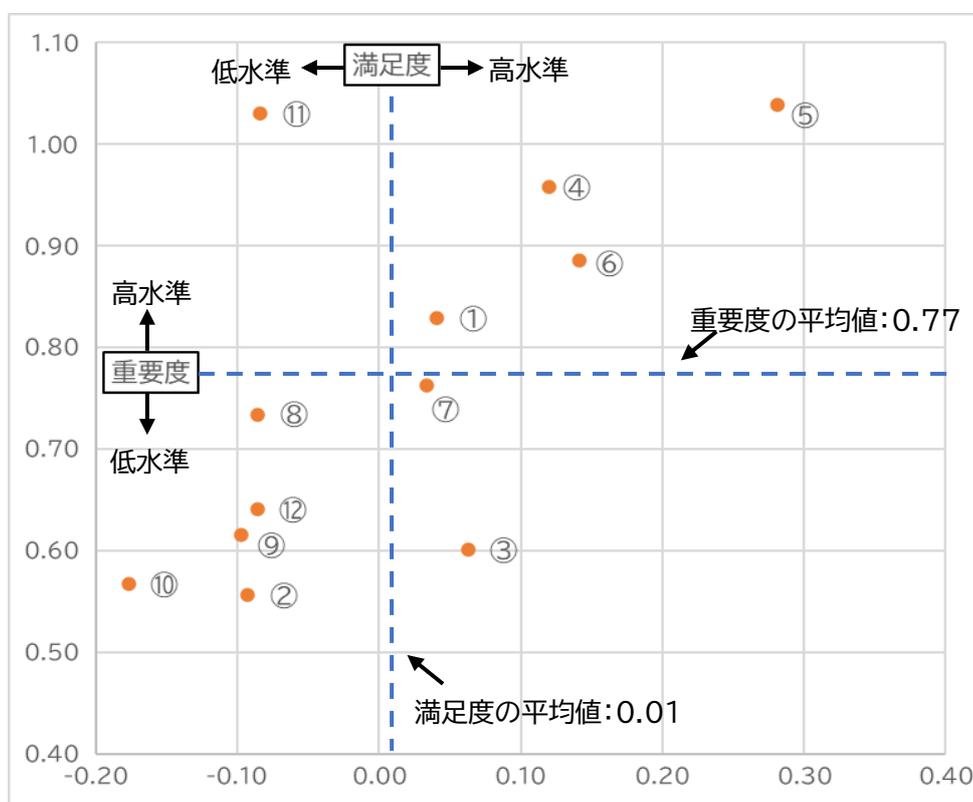
充実させる手段 (江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月)



(5) 生涯学習施策の重要度と満足度の分析結果について

「生涯学習に関する情報提供の充実」は満足度が低く、さらに重要度が高くなっていることから、本市における生涯学習を推進していく上で優先度の高い施策となっています。前回調査（平成23年3月）と比較すると、重要度が増加したものはありませんが、「オンライン受講などの参加方法の充実」「指導者・コーディネーターの養成」「各種サークル・グループの支援」「近隣の大学などの公開講座、社会人の受け入れ体制の充実」「学んだことを活用できる場の提供」については、必要に応じて見直しをする調査結果となりました。

◆重要度・満足度の散布図



区分
①講座、講演会などの種類や数の充実
②オンライン受講などの参加方法の充実
③歴史・文化・自然など地域の財産を活用した身近な学習機会の充実
④公民館・学習等供用施設・児童館などの身近な学習施設の充実
⑤図書館・歴史民俗資料館・市民文化会館など文化施設等の充実
⑥体育館・テニスコート・グラウンド等体育施設の充実
⑦学校や地域との連携強化
⑧指導者・コーディネーターの養成
⑨各種サークル・グループの支援
⑩近隣の大学などの公開講座、社会人の受け入れ体制の充実
⑪生涯学習に関する情報提供の充実
⑫学んだことを活用できる場の提供

<p>タイプⅠ：優先度高い</p> <p>①生涯学習に関する情報提供の充実</p>	<p>タイプⅡ：現状維持</p> <p>①講座、講演会などの種類や数の充実</p> <p>④公民館・学習等供用施設・児童館などの身近な学習施設の充実</p> <p>⑤図書館・歴史民俗資料館・市民文化会館など文化施設等の充実</p> <p>⑥体育館・テニスコート・グラウンド等体育施設の充実</p>
<p>タイプⅢ：必要に応じて見直し</p> <p>②オンライン受講などの参加方法の充実</p> <p>⑧指導者・コーディネーターの養成</p> <p>⑨各種サークル・グループの支援</p> <p>⑩近隣の大学などの公開講座、社会人の受け入れ体制の充実</p> <p>⑫学んだことを活用できる場の提供</p>	<p>タイプⅣ：優先度低い</p> <p>③歴史・文化・自然など地域の財産を活用した身近な学習機会の充実</p> <p>⑦学校や地域との連携の強化</p>

生涯学習の環境づくりについて、今後の取り組みがどの程度重要か(以下「重要度」とする)、また、現状どの程度満足しているか(以下「満足度」とする)を回答していただきました。

重要度は、項目ごとに「重要である」を+2点、「まあまあ重要である」を+1点、「どちらともいえない」を0点、「あまり重要でない」を-1点、「重要でない」を-2点とし、満足度は、項目ごとに「満足」を+2点、「まあまあ満足」を+1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とし、12の取り組みについての重要度・満足度をグラフ化し、全設問の重要度・満足度の平均値を評価軸として、今後の取り組みの方向性について分析を行いました。

◆前回調査との比較

	増加(重要度：Ⅲ、Ⅳ→Ⅰ、Ⅱ 満足度：Ⅰ、Ⅲ→Ⅱ、Ⅳ)	減少(重要度：Ⅰ、Ⅱ→Ⅲ、Ⅳ 満足度：Ⅱ、Ⅳ→Ⅰ、Ⅲ)
重要度		⑧指導者・コーディネーターの養成
満足度	④公民館・学習等供用施設・児童館などの身近な学習施設の充実 ⑤図書館・歴史民俗資料館・市民文化会館など文化施設等の充実 ⑥体育館・テニスコート・グラウンド等体育施設の充実	⑧指導者・コーディネーターの養成 ⑨各種サークル・グループの支援 ⑩近隣の大学などの公開講座、社会人の受け入れ体制の充実 ⑫学んだことを活用できる場の提供

○生涯学習の内容と活動の機会と場を充実する●●●●●●●●●●

生涯学習活動への意欲について、「非常にある」と回答した割合は、10歳代、20歳代では約30%と最も高いです。また、75歳以上を除く全ての世代で5割程度が「非常にある」「ややある」と回答しています。しかしながら、働き盛りの世代は、意欲はあるが、「仕事や家事が忙しく、時間がない」と回答し、時間的な制限によって生涯学習活動に参加できないことが考えられます。また、行った生涯学習の内容としては「趣味・教養に関するもの」「健康管理に関するもの」「知識・技能の向上や資格取得に関するもの」と回答した割合が高いことがわかりました。

生涯学習活動へのニーズは世代や性別によって様々です。市民のニーズを常に十分把握し、対応することが必要となっています。さらなる生涯学習の活動の機会を充実していくことが必要です。

○目標ややりがいをもって活動する●●●●●●●●●●

学習成果の生かし方については、「健康や体力づくり」や「友人や仲間づくり」「教養を深めること」など、自分自身の生活の質を向上させるために行っている市民が多くいます。また「地域でのまちづくりや地域の活性化」や「講座講師やイベントの企画等」など、自分の学習成果を社会に還元したい、協働したいと考えている市民もみられます。この考え方は、学習意欲を高めていくことにも繋がります。市民の学習意欲を高めていくためにも、やりがいや目標のもてる生涯学習活動の環境を整備していくことが必要です。

第3章 基本理念と基本目標

1 基本理念

(1) 計画の基本理念

目指す生涯学習社会とは、

- いつでも、どこでも、だれでも、自発的に学習し、自己を高め、充実した生活を送ることのできる社会
- 生涯を通して、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、それが適切に評価され、生活のあらゆる場に生かすことができる社会
- 一人ひとりが学習活動で生きがいを見つけ、習得した成果を活用し、人と人とのつながりによって学習活動を発展させることができる社会

です。

これらの生涯学習社会の実現を目指すとともに、市民の主体的な参加によって、だれもが、その人の学びやすい時間、場所で生涯学習を行うことができる生涯学習のまちを目指すため、本計画の基本理念を次のように設定します。

**みんなでつくる「いつでも、どこでも、だれでも」学べる
生涯学習のまち こうなん**

(2) 基本理念の実現に向けた数値目標

本計画の基本理念を実現するために、本計画では、基本施策ごとに数値目標を設定し、この数値目標の達成に向け、計画を推進していきます。

2 基本目標

1 みんなでつくる生涯学習

生涯学習活動には、学校や地域、家庭、市民、市民ボランティアなど多くの人や、機関の連携が求められます。多様化する学習ニーズに的確に対応し、活発な生涯学習を展開するために、連携の仕組みづくりが重要です。

また、そこから繋がる文化振興、多文化共生・交流、世代間交流などの連携から生まれる生涯学習の展開に努めます。

2 いつでもどこでも学べる生涯学習情報の提供、環境の整備

だれ一人取り残されず、市民がいつでもどこでも学ぶ機会が得られるための情報提供に努めます。

学習ニーズの高度化、多様化に対応するため、既存施設の有効的な活用と生涯学習拠点の整備に努めます。

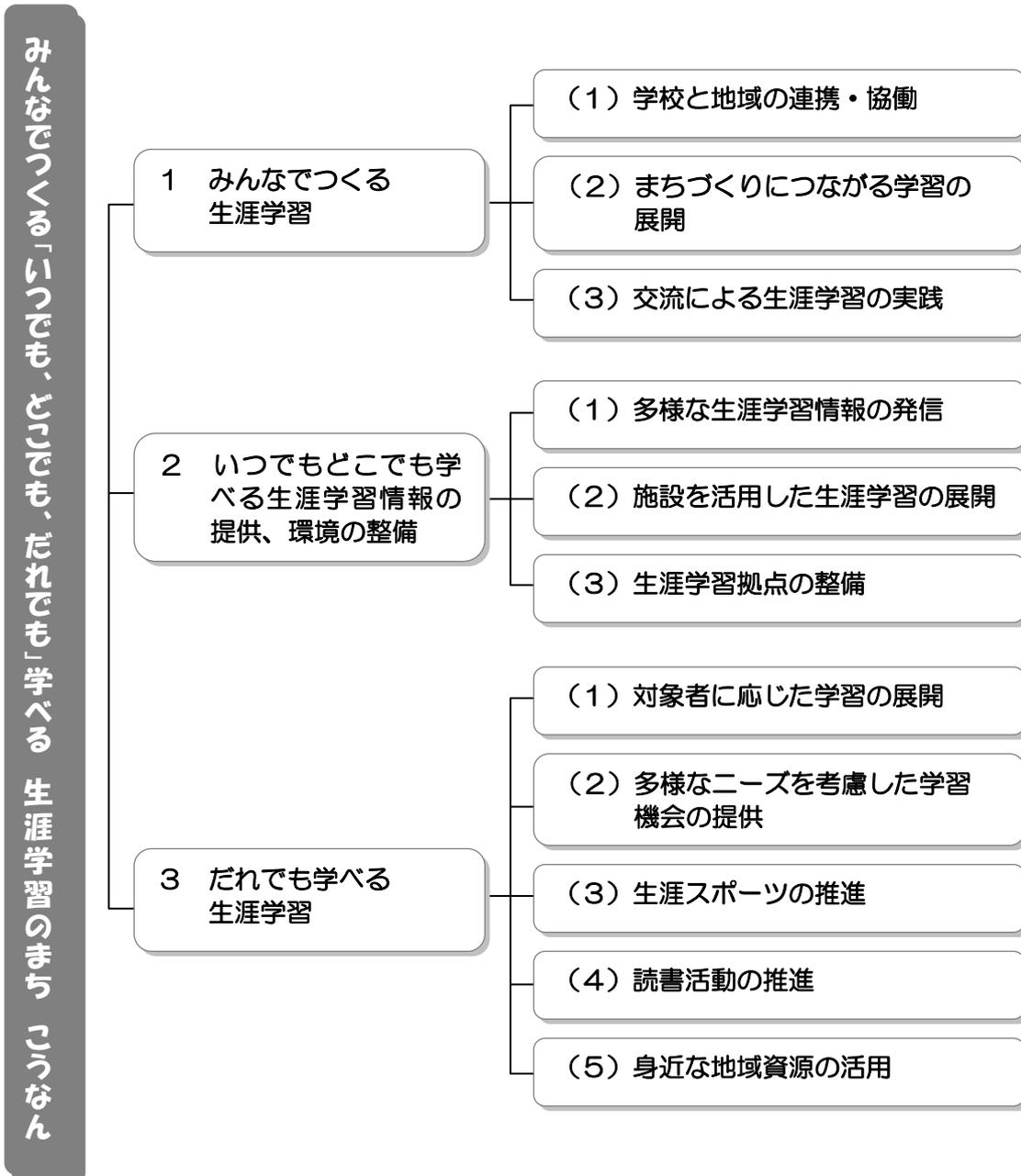
3 だれでも学べる生涯学習

市民のニーズは世代によって異なり、また変化の激しい社会状況においては、社会的ニーズも大きく変化しています。市民の様々なニーズを十分に把握し、生涯学習の提供に努めます。

また、読書も生涯学習の手段です。図書館や古北にじいろ会館内にある図書館分室の充実とともに、市民のより良い読書活動の推進に努めます。

3 施策の体系

基本理念	基本目標	施策の方向性
------	------	--------



第4章 基本計画

基本目標1 みんなでつくる生涯学習

(1) 学校と地域の連携・協働

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
青少年健全育成推進連絡協議会講演会への参加者数(人) 【生涯学習課】	青少年の健全育成について地域の人々が携わっている	146 (令和6年度)	175	200

【関連するSDGs目標】



現状・課題

生涯学習は市民の主体的な活動が中心であり、学校や地域でその主体的な活動を幅広く展開していくことが求められています。学校と地域が連携・協働して行う地域学校協働活動は、小中学生を対象に実施しています。アンケート調査において、今後の取り組みで「学校と地域との連携強化」について「重要である」「まあまあ重要である」と回答した割合は、56.6%であり、それに対して現在の満足度が「満足」「まあまあ満足」と回答した割合は7.7%です。また、連携強化が重要であると半数の人が回答していますが、重要度と比べて、満足度はとても低くなっています。学校、地域、家庭が連携・協働した事業を行うことで、市民の生涯学習活動の充実が期待されます。

また、家族の在り方の多様化や、地域におけるつながりの希薄化など青少年を取り巻く環境は、急速に変化しています。引き続き、学校と地域、家庭が連携を図り、さらなる青少年の健全育成推進を図る必要があります。

「学校や地域との連携の強化」に対する重要度・満足度
 (江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月)

	重要である	まあまあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	無回答	合計
回答数	159	268	198	31	20	79	755
構成比	21.1 %	35.5 %	26.2 %	4.1 %	2.6 %	10.5 %	100.0 %

	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	参加していないのでわからない	無回答	合計
回答数	10	48	230	29	14	352	72	755
構成比	1.3 %	6.4 %	30.5 %	3.8 %	1.9 %	46.6 %	9.5 %	100.0 %

方向性

地域学校協働活動、街頭補導事業、青少年健全育成推進事業などを通して、学校・地域・家庭が一体となり、多くの児童、生徒、青少年が健全に育ち、生涯学習活動に参加できるように、環境を整えていきます。

施策の展開

- ①地域学校協働活動の推進
- ②青少年健全育成

主要事業

こども土曜塾、こども未来塾、子ども学級

(2) まちづくりにつながる学習の展開

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
地域交流センター 利用者数(人) 【企画課】	地域協働・地域交流の拠点としてまちづくりにつながる学習の機会を創出している	18,478 (令和5年度)	18,489	18,500
NPOボランティア講座 参加者数(人) 【企画課】	まちづくりなどボランティアへの関心を高める機会を創出している	100 (令和5年度)	125	150
中学生の地域ボランティア 参加者数(人) 【教育課】	地域の一員である自覚を促し、持続可能な社会の実現を目指す	260 (令和5年度)	270	280

【関連するSDGs目標】



現状・課題

地域の活力を高めるためには、多様化する市民の生活様式などへの対応だけでなく、より幅広く学習活動を展開し、地域の活性化へ繋がる仕組みづくりが求められています。アンケート調査において、生涯学習で学んだことを地域でのまちづくりや地域の活性化に生かしている、また今後生かしたいと回答した割合は、それぞれ7.1%、7.5%とどちらも低く、市民の幅広い学習活動が地域の活力として生かされていない現状があります。

また、在住外国人との交流において、国際理解・多文化共生に関する意識を深める生涯学習活動も重要です。様々な場面において、市民ボランティアの活躍も多く、ボランティアによるまちづくりについて考え、学習活動の展開を充実させていく必要があります。市民が自主的に学習することへの支援や市民参画の支援も求められています。

方向性

学習活動や文化活動、国際理解・多文化共生、ボランティア活動を通して地域の活力が向上するよう、市全域で行われている活動を体系的に位置付け、それらの活動がまちづくり活動へと発展することを目指します。

施策の展開

- ①市民のまちづくり活動への支援
- ②文化の振興を図る学習の展開
- ③出前講座の展開
- ④多文化共生社会の形成
- ⑤ボランティア活動の促進

主要事業

江南市まちづくり出前講座「市政よもやま塾」、国際交流協会事業、「地域交流センター」の運営

(3) 交流による生涯学習の実践

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
国際交流フェスティバルの参加者数 (人) 【生涯学習課】	多文化交流による生涯学習ができている	1,200 (令和6年度)	1,500	1,800

【関連するSDGs目標】



現状・課題

市民の生涯学習活動は、地域におけるコミュニティ育成の基盤づくりであり、社会参加を促しながら交流活動を積極的に行うことや、在住外国人との交流において、市民の国際理解の向上を図ることが重要です。令和6年（2024年）3月末現在、本市の外国人人口の割合は2.5%です。そういった中で、江南市国際交流協会などの国際交流活動・多文化共生活動のほか、学校では多世代交流や子どもたちの異年齢交流など様々な交流活動が行われています。今後は、こうした交流活動を一層推進する必要があります。

方向性

在住外国人が定住する中、生涯学習活動を通して在住外国人と市民が互いの文化を認めあい、多様な文化が共生するための施策を推進し、交流活動を支援します。

また、多文化だけではなく、多世代の様々な交流を促進していきます。

施策の展開

- ①多文化交流による生涯学習活動の支援
- ②世代間による交流活動の促進

主要事業

国際交流協会事業、江南市コミュニティ・スポーツ祭

基本目標2 いつでもどこでも学べる生涯学習情報の提供、環境の整備

(1) 多様な生涯学習情報の発信

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
情報発信の充実(%) 【生涯学習課】	市民が生涯学習について情報を得ている	23.3 (令和5年度)	25	30

【関連するSDGs目標】



現状・課題

生涯を通して学習活動を実施するためには、自分に適した学習を選択し、効果的・効率的に学習活動を進めることが求められています。そのためには、学習に関する情報提供を充実させることが必要です。

本市では、広報やちらし、市ホームページ、あんしん・安全ねっとメールを活用し、生涯学習活動の情報発信に努めています。また、あんしん・安全ねっとメールから講座の申込みをしていただけるよう、生涯学習活動に参加しやすい仕組みを整えています。

アンケート調査より、生涯学習に関する情報を得ていないと回答した割合は32.2%であり、情報を得ることができておらず、情報提供が不十分である状況がわかります。また、生涯学習に関する情報提供の充実については、重要性を認識しつつも満足度は高くありませんでした。メールやLINEなど、以前よりも情報を発信する手段は増えているため、今後は発信する際の工夫が重要であると考えます。

また、障害のある人や子育てをしている人など、だれもが安心して学習することができる環境を整え、会場での配慮やサポート体制の整備に関する情報提供が必要です。

方向性

市民のだれもがどこでも学習情報を入手できるよう、年齢に応じた情報提供の方法を工夫し、広報誌やホームページ、メール、SNSなど様々な媒体により、わかりやすく提供していきます。また、だれもが安心して生涯学習活動に参加できるための配慮やサポート体制に関する情報を充実させていきます。

施策の展開

- ①情報発信手段の充実
- ②サポート体制の充実

主要事業

ホームページへの掲載、インターネット等による情報提供

(2) 施設を活用した生涯学習の展開

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
図書館企画事業参加者数(人) 【生涯学習課】	市民が参加できる講座を 図書館で開催できている	大人 3,279 子ども 3,303 (令和5年度)	大人 3,500 子ども 3,500	大人 3,700 子ども 3,700

【関連するSDGs目標】



現状・課題

現在、図書館では学習室など座席予約システムを活用し、オンライン予約ができ、利用しやすい仕組みを整えています。市民の主体的な学習をさらに推進するためにも、生涯学習関連施設の環境整備と十分な管理運営を行い、安全で快適な学習空間の提供と利便性の向上に努める必要があります。

本市においては、市民文化会館、すいとぴあ江南など市全体を対象とした拠点施設のほか、各地域ごとに公民館や学習等供用施設などが整備されています。また、アンケート調査では、特に生涯学習を充実させてほしい施設として、図書館と回答した割合が最も高く、次に市民文化会館、スポーツセンターの順でした。

市民の多様化したニーズに対応した学習機会を、既存施設において提供することや、利用しやすいシステムの構築の充実が求められています。

方向性

既存の学習施設の環境を整備、充実させ、生涯学習活動の機会を提供していきます。

公民館、学習等供用施設、スポーツ施設、図書館、市民文化会館、すいとぴあ江南における学習活動を充実します。

施策の展開

- ①公民館、学習等供用施設、スポーツ施設を活用した
学習の展開
- ②図書館、市民文化会館、すいとぴあ江南での学習の
展開

主要事業

公民館企画事業、市民文化会館自主文化事業、図書館企画事業

(3) 生涯学習拠点の整備

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
図書館の施設満足度(%)【生涯学習課】	市民が積極的に図書館を利用するための快適な環境が整備できている	89 (令和5年度)	92	95
図書館の蔵書冊数(冊)【生涯学習課】	市民が図書館を利用するための環境が整備できている	179,455 (令和5年度)	22万	27万

【関連するSDGs目標】



現状・課題

本市においては、公民館や学習等供用施設、スポーツ施設、図書館、市民文化会館、すいとぴあ江南が整備されています。今後も市民が安心して気軽に利用できる環境整備に努める必要があります。

方向性

市民が安心して、より質の高い生涯学習活動を展開するため、公民館や学習等供用施設、スポーツ施設、図書館、市民文化会館、すいとぴあ江南の既存施設において、より安心して気軽に学習ができる環境整備をしていきます。

施策の展開

- ①公民館、学習等供用施設、スポーツ施設の整備
- ②図書館、市民文化会館、すいとぴあ江南の整備

主要事業

公民館の設備改修の検討、スポーツプラザの維持運営、図書館維持運営

基本目標3 だれでも学べる生涯学習

(1) 対象者に応じた学習の展開

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
中学2年生による 職場体験(受入事業 所数)【教育課】	学校と地域とのつなが りができている	268 (令和5年度)	280	300
社会人になってから も、定期的な学習 をしている市民の 割合(%)【生涯学習課】 ※市民満足度調査より	市民が様々な学習活動 を展開し、生きがいをも った生活を送っている	46.2 (令和5年度)	51	53

【関連するSDGs目標】



現状・課題

年齢とともに生活様式が変化し、生涯を通して学習できる環境づくりが必要となります。また、小中高生、成人、高齢者、障害のある人、子育てをしている人、親子など多様な市民に対して、学習を展開することが求められています。

本市では、各年代のニーズに対応するため、様々な事業を行っていますが生活様式の違いなどによって1日の時間の使い方や余暇の過ごし方が違うことから、生涯学習に取り組むことができない現状があります。アンケート調査では生涯学習を行わなかった理由として、10歳代は「きっかけがつかめない」と回答した割合が50.0%、また「仕事や家事が忙しく、時間がない」「必要な情報が少ない」と回答した割合が33.3%です。働き盛りの30歳代から50歳代では「仕事や家事が忙しく、時間がない」と回答した割合が最も高く、依然、生涯学習活動への参加意欲が高いものの、時間的制限などによって生涯学習活動に参加できない状況がみられます。

また、どのような内容の生涯学習活動を行いたいかについては、年代

によって内容が異なる結果です。その中でも「趣味・教養に関すること」と回答した割合はどの年代においても高い傾向です。個人の価値観の違いや社会・家庭環境などにより、興味や関心も変化していくことが考えられます。そのため、各年代のニーズをしっかりと把握するとともに、対象を明確にした生涯学習活動の展開が必要です。

生涯学習を行わなかった理由 ※主だったものを抜粋
(江南市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書 令和6年2月)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～74歳	75歳以上
必要な情報が少ない	33.3%	46.2%	22.0%	21.2%	16.5%	21.4%	34.8%	16.5%
健康上の理由がある	0.0%	3.8%	0.0%	3.0%	3.8%	17.9%	20.3%	34.2%
仕事や家事が忙しく、時間がない	33.3%	26.9%	68.3%	60.6%	50.6%	50.0%	37.7%	17.7%
きっかけがつかめない	50.0%	30.8%	22.0%	36.4%	26.6%	17.9%	33.3%	34.2%

方向性

一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通して意欲的に学ぶことができる学習を展開します。また、市民が学習活動に参加できるよう、各年代の学習ニーズを把握するとともに、対象者の生活に応じた学習活動ができるよう、学習機会の提供を充実します。小中高生、成人、高齢者、障害のある人、子育て期にある家族など、様々な環境にある人の学習活動を支援します。

施策の展開

- ①対象者に応じた学習ニーズの把握
- ②小中高生を対象とした学習の展開
- ③成人を対象とした学習の展開
- ④高齢者を対象とした学習の展開
- ⑤障害のある人を対象とした学習の展開
- ⑥子育て期にある家族を対象とした学習の展開

主要事業

ファミリーふれあい教室、スポーツ少年団活動、生涯学習講演会、盆踊り講習会

(2) 多様なニーズを考慮した学習機会の提供

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
川と海のクリーン大作戦参加者数(人) 【下水道課】	河川環境への関心が高まっている	1,144 (令和5年度)	1,170	1,200
男女共同参画に関するセミナー等への参加割合(%) 【市民サービス課】	男女共同参画への理解を深める	41.1 (令和5年度)	65.0	95.0
防火講話の開催(回) 【消防予防課】	住宅火災の予防対策を図る	1 (令和5年度)	3	5
応急手当講習会の受講者数(人) 【消防署】	市民のニーズに応えた講習機会を提供する	6,320 (令和5年度)	6,500	6,700

【関連するSDGs目標】



現状・課題

人生を豊かにするために、生涯を通して学ぶことで生きがいや楽しみをもつことが求められています。市民の生活様式の多様化にともない、学習内容や学習する時間帯など、市民の学習へのニーズも多種多様となっています。新型コロナウイルス感染症の流行により、ICTを活用した学習機会が増え、年齢や性別に関わらない学習機会の提供がなされています。また、高齢化により、健康や介護の問題に対応できる学習機会が提供されています。悪質商法による消費者トラブルも依然多くあり、児童期からの消費者教育も実施されています。台風や地震などによる災害、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性などによる、災害に対する

市民意識や、インターネット上の誹謗中傷による人権トラブル、平和の尊さ、原爆の悲惨さを伝えるなど、人権や平和に関する意識も高まっています。

アンケート調査より、生涯学習で得た知識・経験を今後どのように生かしたいかについて、「健康の維持や体力づくり」という回答が最も高く、次に「教養を深めること」「友人や仲間づくり」の順で回答がありました。

このような状況を踏まえ、今後も様々な課題に対する問題解決手段としての学習活動が必要です。

方向性

社会環境の変化に伴い、日常生活において、新たな知識や多様な価値観が求められる時代と考えられます。

個人の価値観の多様化、社会変化の課題から出てくる学習ニーズに関する学習活動を支援します。

施策の展開

- ①ICT に対応する学習機会の提供
- ②男女共同参画に関する学習機会の提供
- ③環境に関する学習機会の提供
- ④健康に関する学習機会の提供
- ⑤消費生活に関する学習機会の提供
- ⑥防災及び安全に関する学習機会の提供
- ⑦人権及び平和に関する学習機会の提供

主要事業

ICT の活用、平和事業朗読劇、人権教室

(3) 生涯スポーツの推進

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
参加しやすいスポーツ事業の推進、楽しみん祭参加者数(人) 【スポーツ推進課】	幅広い年齢層を対象に軽スポーツ体験イベントを開催している	116 (令和5年度)	130	140

【関連するSDGs目標】



現状・課題

市民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むことが出来るよう、生涯スポーツを推進することは大変重要です。

本市には、スポーツセンター・武道館、市営グラウンドなどがあり、スポーツ活動や地域のコミュニティ活動など多くの市民に広く利用されています。

しかし、少子化に伴い、スポーツ少年団などで活動する子どもたちは減少傾向にあり、人々の活動も多様化していることから、スポーツを取り巻く環境が変化してきています。このような状況に対応するため、だれもが気軽にスポーツを楽しむことのできる環境づくりを目指し、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ団体を積極的に支援していく必要があります。さらに、こうした市民のスポーツ活動を支える指導者などの育成及び支援も重要な課題のひとつです。

方向性

子どもから高齢者まで、「誰もが気軽にスポーツを楽しめるまち こうなん」を目指して、健康づくりから競技スポーツまで様々なスポーツ活動の場を提供し、そのために必要な、環境づくりを推進します。

施策の展開

- ①参加しやすいスポーツ事業の推進
- ②地域スポーツの推進
- ③子どものスポーツ活動の推進
- ④競技スポーツの振興

主要事業

スポーツ教室、市民駅伝競走大会、江南市コミュニティ・スポーツ祭、
スポーツ推進委員事業

(4) 読書活動の推進

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
子どもの不読率※ (%)【生涯学習課】	子どもが自主的・積極的に読書を楽しんでいる	小2: 10.0 小5: 10.5 中2: 29.1 高2: 59.2 (令和5年度)	小2: 8 小5: 8 中2: 25 高2: 55	小2: 6 小5: 6 中2: 20 高2: 52
登録者一人当たりの 図書の貸出冊数 (冊)【生涯学習課】	市民が読書に親しんでいる	9.3 (令和5年度)	12	13

※不読率とは、1か月の間に1冊も本を読まなかった児童・生徒の割合のことを指す。

【関連するSDGs目標】



現状・課題

子どもにとって読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けるうえで、欠かすことのできない重要な活動です。そのために、子どもたちが幼い時より自然に読書に慣れ親しむことができるよう、社会全体でその推進を図っていくことが求められています。

本市では、令和5年(2023年)4月に布袋駅東複合公共施設内に、「市民一人ひとりの暮らしに寄り添い、幸せをかたちにする図書館」として新市立図書館を開館しました。本の貸出しを行うだけでなく、勉強するための学習室などの提供や、イベントを開催し、市民の生涯学習の拠点となるよう運営しています。

アンケート調査から、過去1年間で読書した人は52.2%であり、本を読まなかった理由で一番回答した割合が高いのは、「時間に余裕がない」で51.3%でした。また「子どもの読書に関するアンケート調査結果報告書(江南市 令和6年3月)」によると、「毎日読書している」と回答した割合は前回調査(令和元年)と比較すると、小学5年生で43%から26.5%と大きく減少しており、読書離れが懸念されます。

その中で、家庭、地域、学校、行政、図書館などが連携し、読書に親しむ環境づくりを促していくことが重要です。成長の節目ごとに読書に触れることができるよう、生まれた時から一生にかけて働きかけをしていくことが重要と考えます。

方向性

子どもが自主的、積極的に読書を楽しむことができるよう、家庭、地域、学校、行政、図書館と連携し、社会全体で読書活動を推進していきます。また、幅広い世代が読書に親しむことができるよう、電子図書館サービスの充実など、読書環境の整備を図ります。そして、社会全体がその取り組みに理解と関心を示すよう、普及・啓発に努めます。

施策の展開

- ①家庭・地域・学校・市図書館などにおける子どもの読書活動の推進
- ②子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発
- ③子どもの読書活動推進体制の整備
- ④多世代におけるより良い読書活動の推進

主要事業

ブックスタート事業、読み聞かせサポーター養成講座、図書館企画事業

(5) 身近な地域資源の活用

【施策の成果目標】

指標	考え方	現状値	中間値 (令和12年度)	最終目標値 (令和16年度)
生涯学習講師人材バンクの登録件数(件)【生涯学習課】	優れた知識や技を持つ人材登録制度により、多様な学習活動に活用ができる	87 (令和5年度)	92	97

【関連するSDGs目標】



現状・課題

地域に根ざした学習活動を展開することは、市民の地域に対する誇りに繋がります。

本市では、歴史・文化的資源、自然的資源、産業的資源、人的資源を活用した生涯学習活動を継続して展開してきました。また、多くの歴史・文化的な資源があり、生涯学習の役割としても、文化や自然とのふれあいを体験できるような学習活動の推進が求められています。その中で民間施設の活用や野外学習も多くの学習の場のひとつです。

アンケート調査より、今後の取り組みで「重要である」「まあまあ重要である」と回答した割合が高いのは、「公民館・学習等供用施設・児童館などの身近な学習施設の充実」「図書館・歴史民俗資料館・市民文化会館等の充実」でした。公共施設を十分に活用した学習の展開が求められています。

方向性

歴史、文化的資源を活用し、子どもから高齢者までが気軽に楽しめる文化、学習事業などの展開に努めます。既存の施設の有効活用を柔軟に行います。また、地域の施設を学習の場として有効的に活用できるよう支援に努めます。

施策の展開

- ①歴史・文化、自然、産業、人的資源の活用
- ②公共施設の柔軟な活用

主要事業

歴史民俗資料館の展示の充実、文化財の保存に係る支援、公民館サークル活動者の活用

第5章 計画推進に向けて

1 計画の推進体制

(1) 江南市生涯学習懇話会及び江南市生涯学習推進委員会の開催

市民の視点に立った生涯学習を推進するために、現在の「江南市生涯学習懇話会」及び「江南市生涯学習推進委員会」において、生涯学習の進捗状況の検証や計画的な推進に向けた提言を行います。

(2) 市民や諸団体などとの連携

行政と市民、家庭、地域、関係諸団体などとの連携を強化し、生涯学習推進のための認識を共有し、協力し合いながら計画の推進に努めます。

(3) 国や県への要望

この計画には、国や県の施策に負うところもあり、関係機関に対して積極的な要望などを行うことにより、計画の推進に努めます。

2 計画推進に向けての連携

生涯学習は、学習形態にとらわれるものではなく、多岐にわたる活動を含めたものであるため、その分野も広範囲に及びます。実施主体についても、行政や教育機関にとどまらず、様々な分野の市民団体や民間企業など多種多様です。

生涯学習を推進するにあたっては、学習機会や活動の場の提供主体が相互に連携し、協力し合い進めることが重要です。そのため、行政のみならず市民、家庭、地域、民間事業者、関係諸団体、教育機関、近隣市町とのネットワークづくりを目指します。

参考資料

1 計画策定の経緯

令和5年度

日程	内容
7月11日	第1回江南市生涯学習推進委員会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画の策定について
8月3日	第1回江南市生涯学習懇話会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画の策定について
10月3日	第2回江南市生涯学習推進委員会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画の策定スケジュールについて ・生涯学習に関するアンケート調査について
10月25日	第2回江南市生涯学習懇話会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画の策定スケジュールについて ・生涯学習に関するアンケート調査について
12月22日～ 1月12日	生涯学習に関するアンケート調査実施
2月22日～ 3月18日	グループヒアリング

令和6年度	
日程	内容
4月10日	生涯学習推進委員、生涯学習懇話会委員へ報告 ・江南市生涯学習に関するアンケート調査の結果について
7月8日	第1回江南市生涯学習推進委員会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画における基本目標（案）について
7月29日	第1回江南市生涯学習懇話会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画における基本目標（案）について
10月1日	第2回江南市生涯学習推進委員会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画（案）について
10月17日	第2回江南市生涯学習懇話会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画（案）について
10月21日	第3回江南市生涯学習推進委員会（書面開催） 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画（案）について
11月1日	第3回江南市生涯学習懇話会 協議事項 ・第3次江南市生涯学習基本計画（案）について
12月16日 ～1月15日	パブリックコメント
1月 日	第4回江南市生涯学習推進委員会 協議事項 ・パブリックコメントの結果報告について ・江南市生涯学習基本計画の最終検討について
2月 日	第4回江南市生涯学習懇話会 協議事項 ・パブリックコメントの結果報告について ・江南市生涯学習基本計画の最終検討について
3月	第3次江南市生涯学習基本計画 策定

2 江南市生涯学習懇話会設置要綱

(設置)

第1条 生涯学習社会の形成促進に関する諸問題の把握と施策のあり方を総合的に検討し、当該社会の実現に向けて計画的、効果的な施策の推進に資するため、江南市生涯学習懇話会（以下「懇話会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 懇話会は、次の事項を所掌する。

- (1) 生涯学習の推進に関し研究、検討すること。
- (2) 生涯学習に関する施策を研究、検討すること。
- (3) 生涯学習基本計画（以下「計画」という。）の策定に向けて提言し、計画策定に関し必要な事項を研究、検討すること。
- (4) その他生涯学習社会の形成促進に関し必要な事項を研究、検討すること。

(組織)

第3条 懇話会は、委員15名以内で組織する。

2 委員は優れた識見を有する者のうちから市長が委嘱する。

(会長及び副会長)

第4条 懇話会に会長及び副会長を置き、その選出は委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員)

第5条 委員の任期は、2年とし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任は妨げない。

2 委員が退職しようとするときは、会長を経て市長に申し出なければならない。

(会議)

第6条 懇話会の会議は、会長が招集する。

2 懇話会は、必要に応じて関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 懇話会の庶務は、教育委員会生涯学習課において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成14年6月1日から施行する。
(江南市生涯学習基本計画懇話会設置要綱の廃止)
- 2 江南市生涯学習基本計画懇話会設置要綱は、廃止する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月30日から施行する。

3 江南市生涯学習懇話会名簿

任期：令和4年6月1日から令和6年5月31日

	役職名	氏 名	備 考
1	会 長 (~R5.5)	伊 藤 由 香	(~R5.3)愛知江南短期大学学長 (R5.4~)愛知江南学園理事長
2	委員(~R5.5) 会長(R5.6~)	脇 坂 康 彦	江南市スポーツ協会常任理事
3	副会長	滝 滋	江南市文化協会顧問
4	委 員 (~R5.3)	浅 野 京 子	江南市立門弟山小学校長
	委 員 (R5.4~)	水 野 美華子	江南市立宮田小学校長
5	委 員 (~R4.12)	安 部 聡 司	江南青年会議所理事長
	委 員 (R5.1~)	山 口 貴 幸	
6	委 員	磯 谷 美恵子	消費生活相談員
7	委 員	伊 藤 倫 子	有識者
8	委 員	遠 藤 和 幸	江南商工会議所事務局長
9	委 員	神 谷 文 子	江南市公民館フェスタ実行委員
10	委 員 (~R4.11)	倉 知 榮 治	江南市民生児童委員協議会会長
	委 員 (R4.12~)	野 呂 美 鈴	
11	委 員	高 橋 正 博	江南市老人クラブ連合会会長
12	委 員 (R5.6~)	土 井 謙 次	名古屋芸術大学准教授
13	委 員	富 永 奇 昂	江南市文化協会会長
14	委 員 (R4.6)	長 瀬 晴 義	江南ロータリークラブ会長
	委 員 (R4.7~R5.6)	富 永 典 夫	
	委 員 (R5.7~)	富 田 清 孝	
15	委 員	二反田 直 美	公募
16	委 員	前 田 益 男	江南市スポーツ少年団本部委員

(敬称略)

任期：令和6年6月1日から令和8年5月31日

	役職名	氏 名	備 考
1	会 長	脇 坂 康 彦	江南市スポーツ協会副会長
2	副会長	神 谷 文 子	江南市公民館フェスタ実行委員
3	委 員	阿 部 一 郎	江南商工会議所事務局長
4	委 員	高 橋 正 博	江南市老人クラブ連合会会長
5	委 員	武 田 篤 司	江南市社会福祉協議会事務局長
6	委 員	田 畑 貴 弘	江南青年会議所理事長
7	委 員	土 井 謙 次	名古屋芸術大学 教採公務員対策室 職員
8	委 員 (~R6.6)	富 田 清 孝	江南ロータリークラブ会長
	委 員 (R6.7~)	南 村 朋 幸	
9	委 員	富 永 奇 昂	江南市文化協会会長
10	委 員	中 谷 美也子	指定管理者江南市立図書館館長
11	委 員	野 呂 美 鈴	江南市民生児童委員協議会会長
12	委 員	早 川 美 紀	江南市総合計画市民会議委員
13	委 員	林 本 麦 子	公募
14	委 員	前 田 益 男	江南市スポーツ少年団本部委員
15	委 員	水 野 美華子	江南市立宮田小学校長

(敬称略)

4 江南市生涯学習推進委員会設置要綱

(設置)

第1条 江南市生涯学習基本計画に基づき、生涯学習社会の形成促進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するため、江南市生涯学習推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 生涯学習に関する施策の総合調整に関すること。
- (2) 生涯学習に関する施策の総合的かつ効果的な企画及び推進に関すること。
- (3) その他生涯学習の調査、研究に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる職にあたる者をもって組織する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は教育部長、副委員長は教育部生涯学習課長を充てる。
- 3 委員長は、委員会の会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、議長を務める。

- 2 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育部生涯学習課において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成14年6月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

別 表（第3条関係）

教育部長、商工観光課長、環境課長、地域ふくし課長、介護保険課長、ふくし支援課長、都市計画課長、企画課長、市民サービス課長、こども未来課長、子育て支援課長、健康づくり課長、教育課長、生涯学習課長、スポーツ推進課長

5 アンケート調査の概要及び結果

I 生涯学習に関するアンケート調査

(1) 調査の目的

本調査は、第3次江南市生涯学習基本計画の参考となる市民の意見を把握するため、アンケート調査を実施しました。本アンケート調査の結果は、生涯学習社会に関する現状の把握、施策の方向性を検討するうえでの参考資料として利用します。

(2) 調査対象

市内在住の満18歳以上の2,000人の方を無作為に抽出

(3) 調査期間

令和5年12月22日から令和6年1月12日まで

(4) 調査方法

郵送による配付、郵送・WEBによる回収（直接持参も可）

(5) 回収状況

配付数	回収数	回収率	有効回答	有効回答率
2,000票	755票	37.8%	755票	100.0%

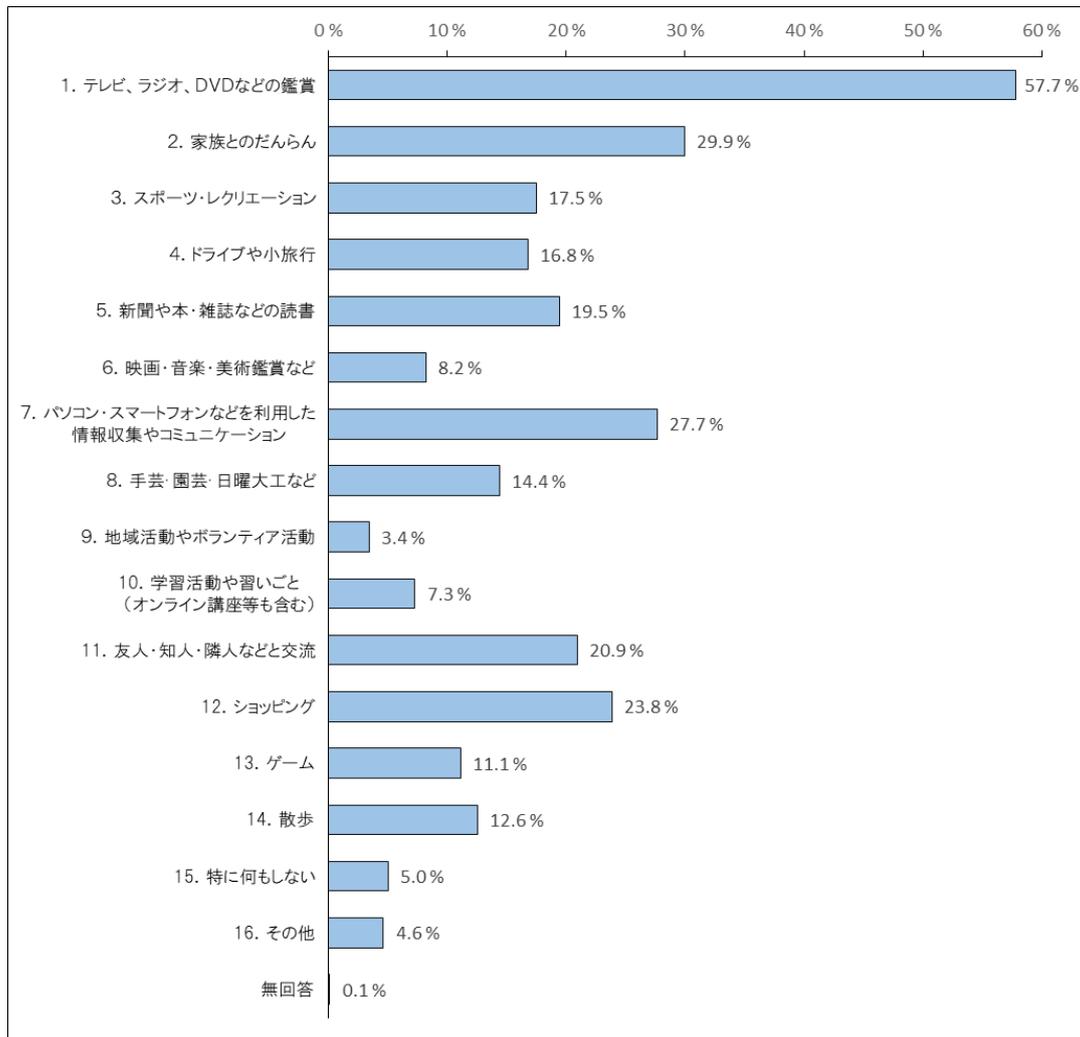
【参考】WEB回収数：225票（回収数のうち29.8%）

(6) アンケート調査の主な結果

問 あなたは、余暇時間を、主にどのようなことをして過ごしていますか。(3つまで)

(回答者数=755人)

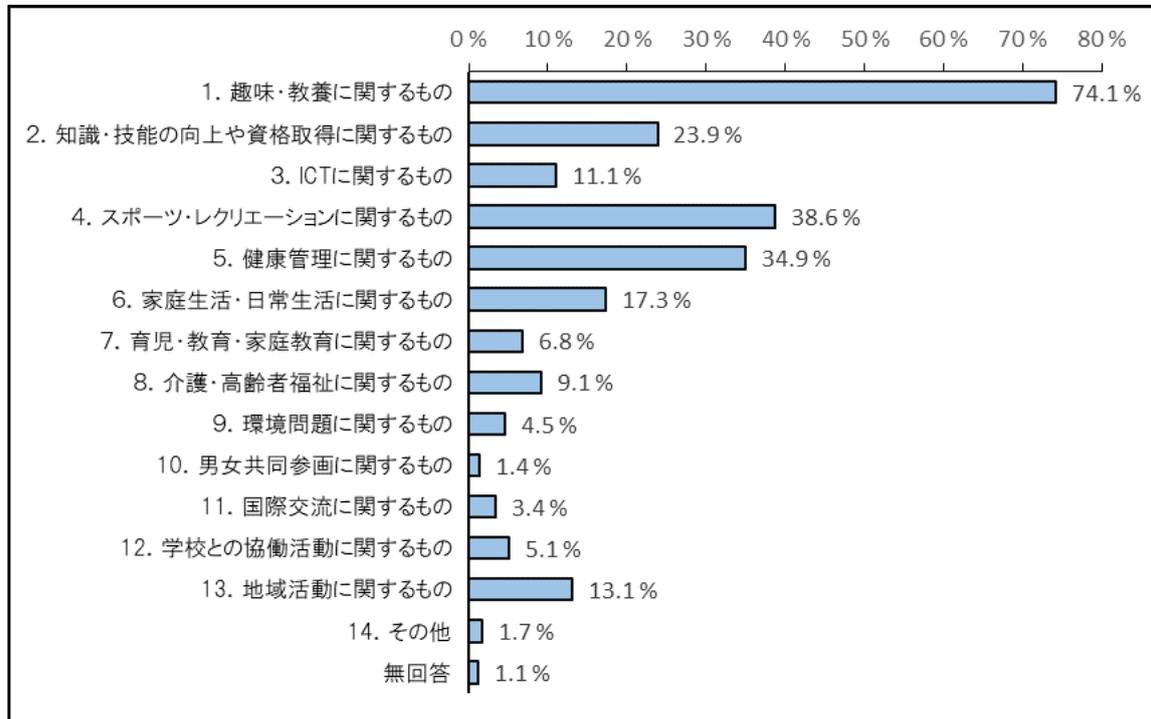
余暇時間の過ごし方は、「テレビ・ラジオ・DVDなどの鑑賞」の割合が最も多く57.7%、次いで「家族とのだんらん」が29.9%、「パソコン・スマートフォンなどを利用した情報収集やコミュニケーション」が27.7%の順となっています。



問 あなたは、どのような内容の生涯学習を行いましたか。(いくつでも)

※生涯学習を実施している方 (回答者数=352)

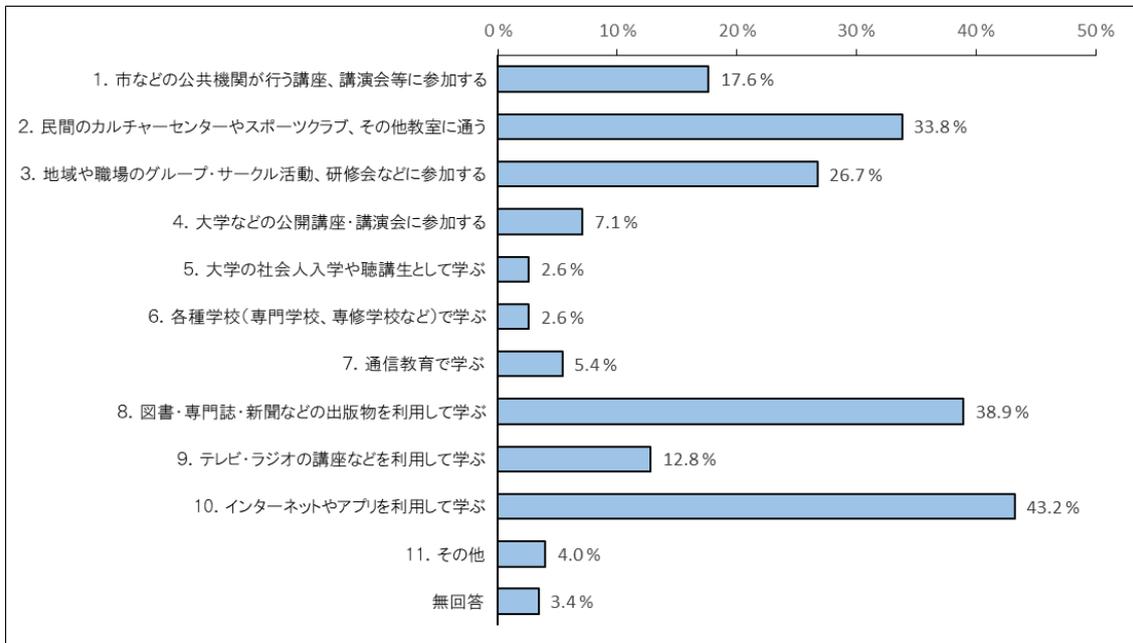
内容については、「趣味・教養に関するもの」が最も多く74.1%、次いで「スポーツ・レクリエーションに関するもの」が38.6%、「健康管理に関するもの」が34.9%の順となっています。



問 あなたは、どのような方法で生涯学習を行いましたか。(いくつでも)

※生涯学習を実施している方 (回答者数=352)

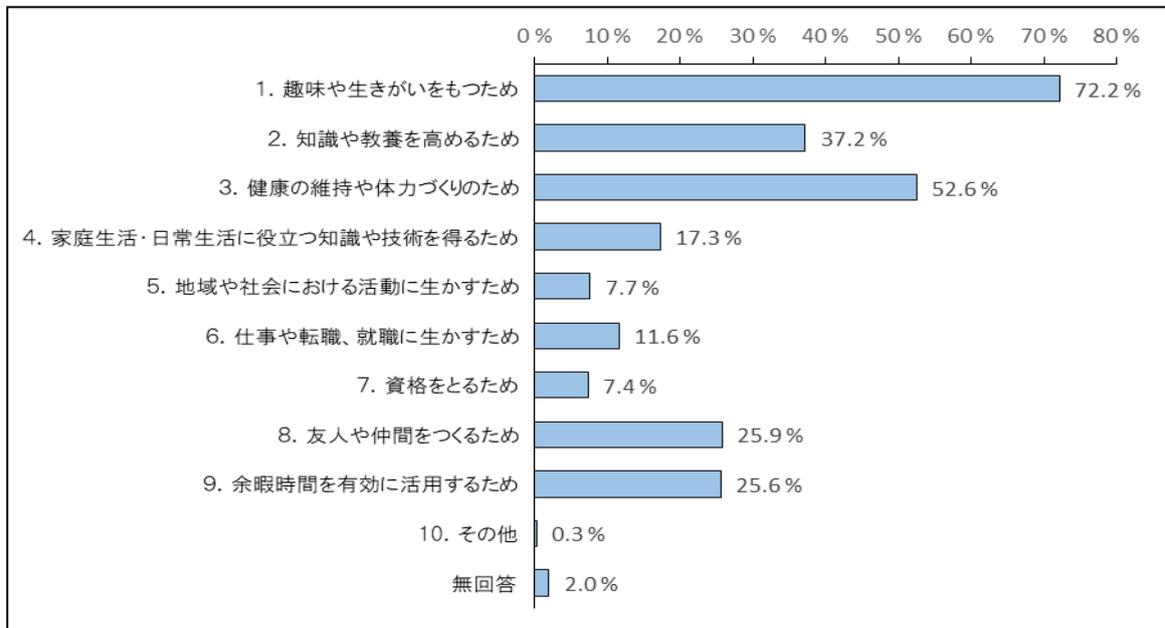
生涯学習を行う方法については、「インターネットやアプリを利用して学ぶ」が最も多く43.2%、次いで「図書・専門誌・新聞などの出版物を利用して学ぶ」が38.9%、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブ、その他教室に通う」が33.8%の順となっています。



問 あなたが生涯学習を行う主な目的は何ですか。(3つまで)

※生涯学習を実施している方(回答者数=352)

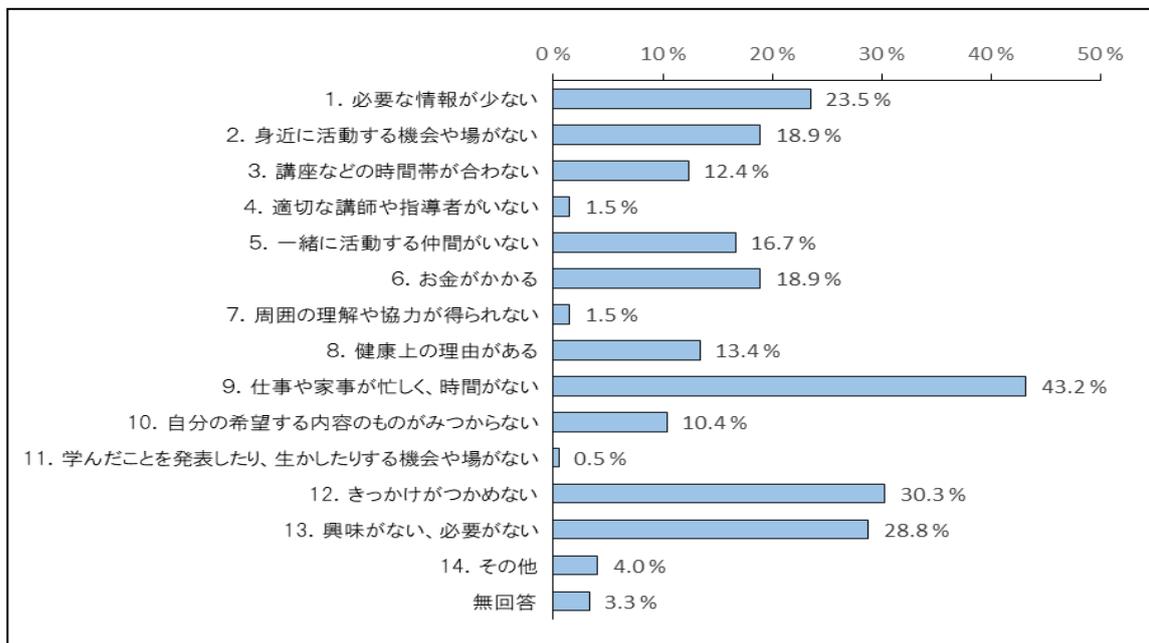
生涯学習を行う目的は、「趣味や生きがいをもつため」が最も多く72.2%、次いで「健康の維持や体力づくりのため」が52.6%、「知識や教養を高めるため」が37.2%の順となっています。



問 生涯学習を行わなかった主な理由は何ですか。(3つまで)

※生涯学習を実施していない方(回答者数=396)

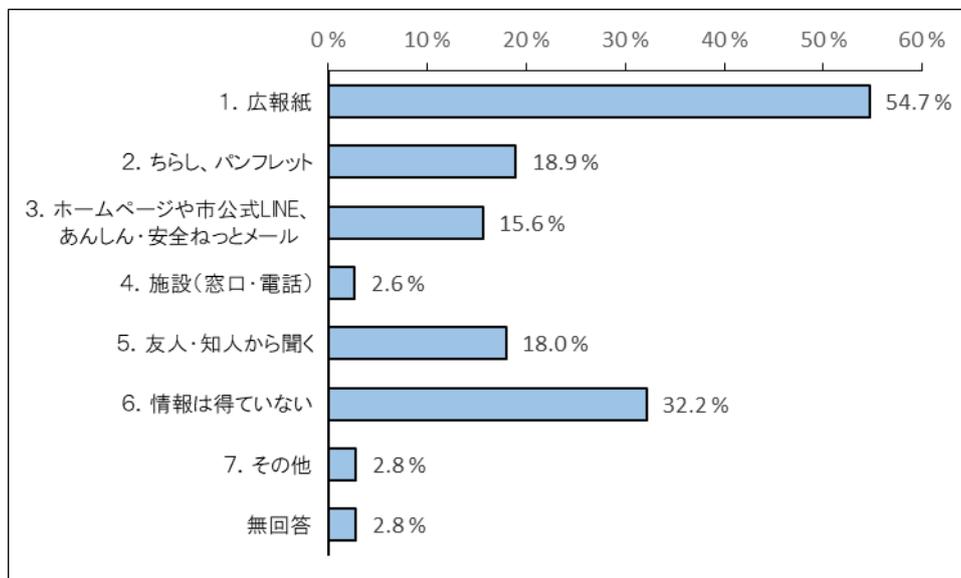
生涯学習を行わなかった理由としては、「仕事や家事が忙しく、時間がない」が最も多く43.2%、次いで「きっかけがつかめない」が30.3%、「興味がない、必要がない」が28.8%の順となっています。



問 あなたは、生涯学習に関する情報をどのような方法で得ていますか。
(いくつでも)

(回答者数=755)

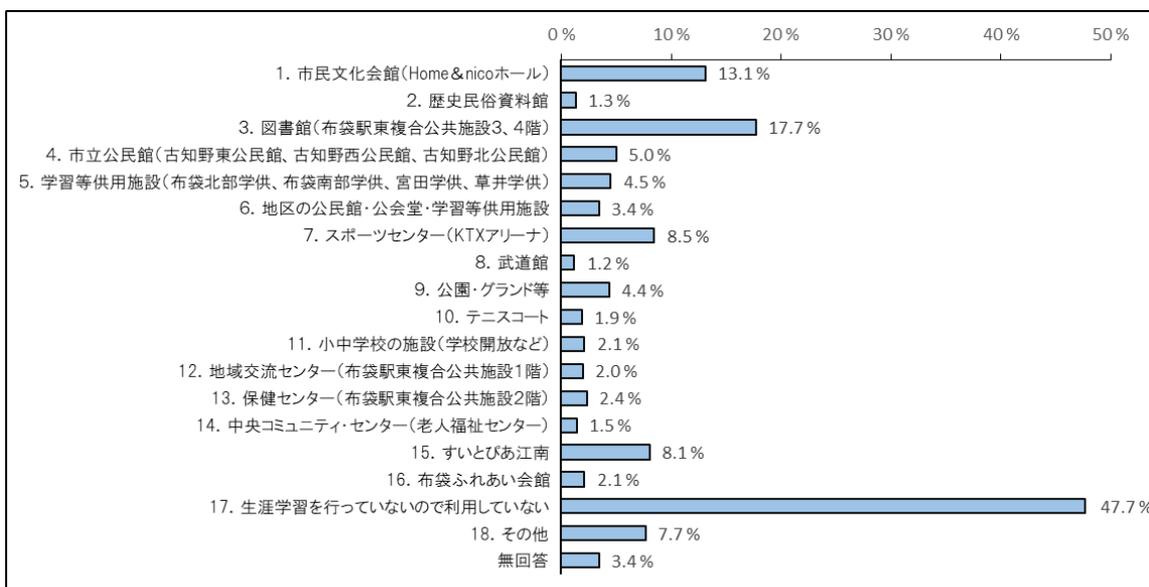
情報を得る方法は、「広報紙」が最も多く 54.7%、次いで「情報を得ていない」が 32.2%、「ちらし、パンフレット」が 18.9%の順となっています。



問 あなたが生涯学習を行うときに、よく利用する施設は何ですか。(利用頻度が高いものを上から3つまで)

(回答者数=755)

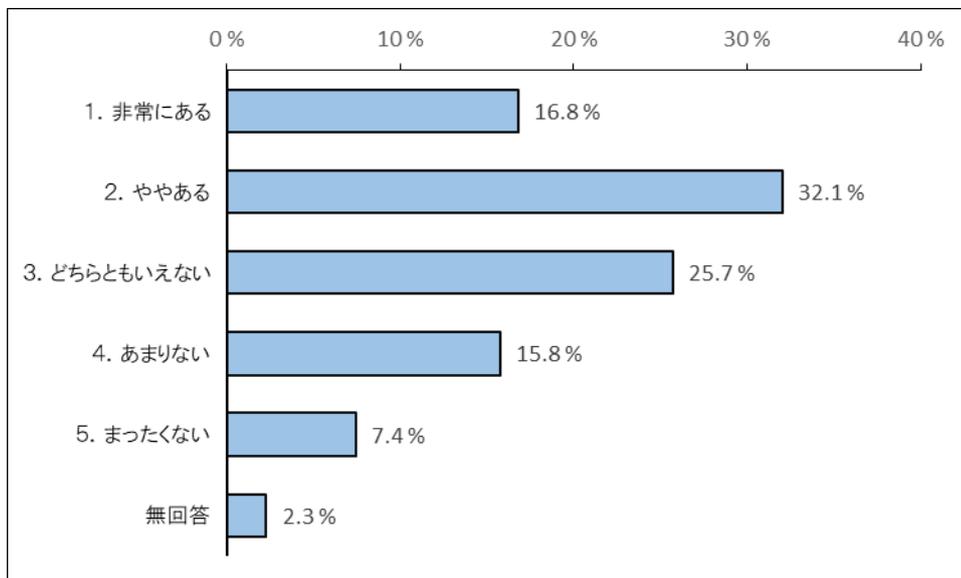
よく利用する施設は、「生涯学習を行っていないので利用していない」が最も多く 47.7%、次いで「図書館」が 17.7%、「市民文化会館」が 13.1%の順となっています。



問 あなたは、今後、生涯学習を行う意欲がありますか。

(回答者数=755)

意欲があるかについては、「非常にある」「ややある」合わせて48.9%となっています。

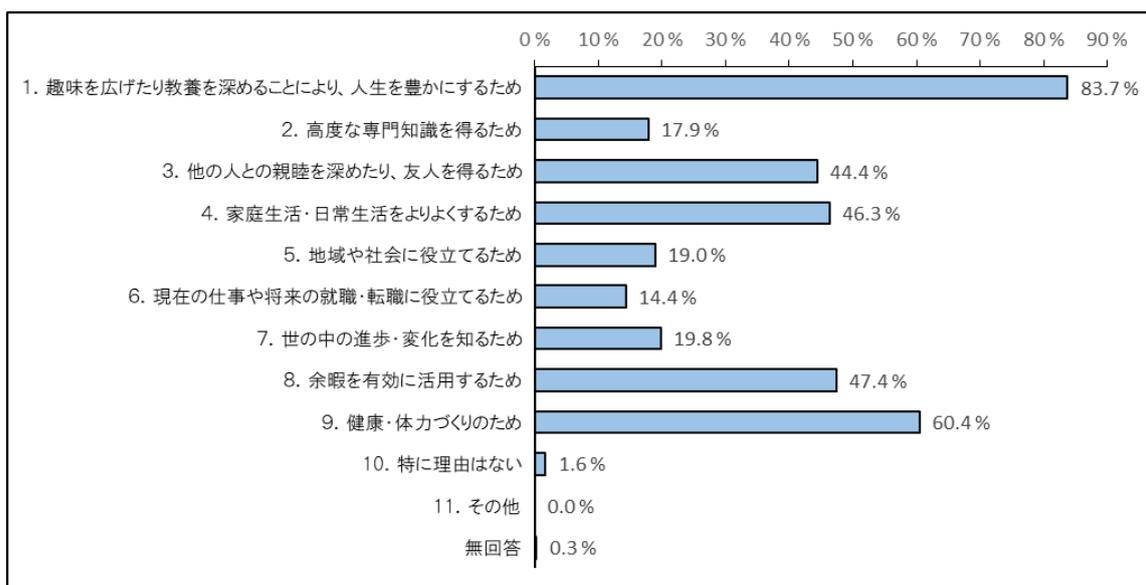


問 あなたが、生涯学習を行う、または、行いたいと思う理由は何ですか。

(いくつでも)

(回答者数=369)

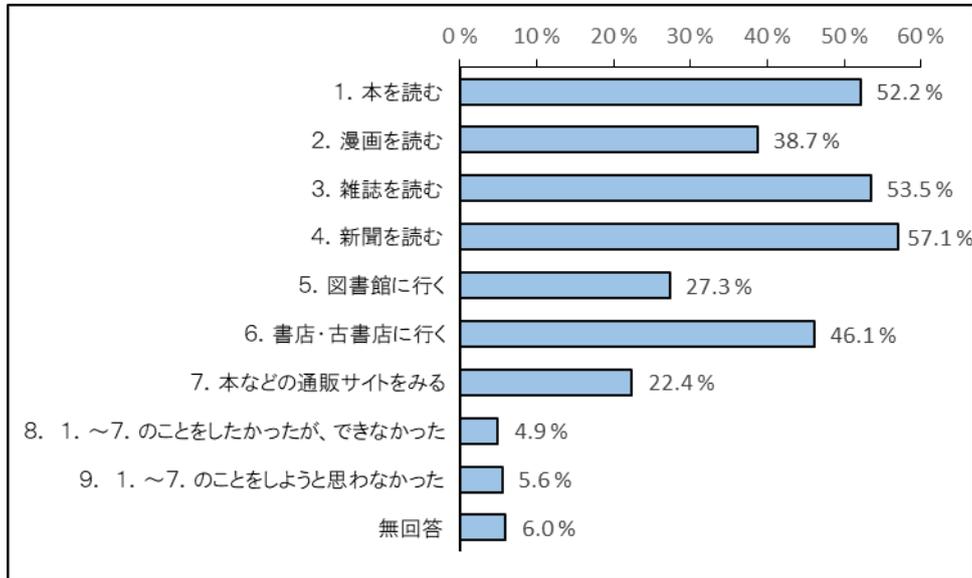
行いたいと思う理由については、「趣味を広げたり教養を深めることにより、人生を豊かにするため」が最も多く83.7%、次いで「健康・体力づくりのため」が60.4%、「余暇を有効に活用するため」が47.4%の順となっています。



問 読書活動について、あなたはここ1年間で次のことをしましたか。(いくつでも)

(回答者数=755)

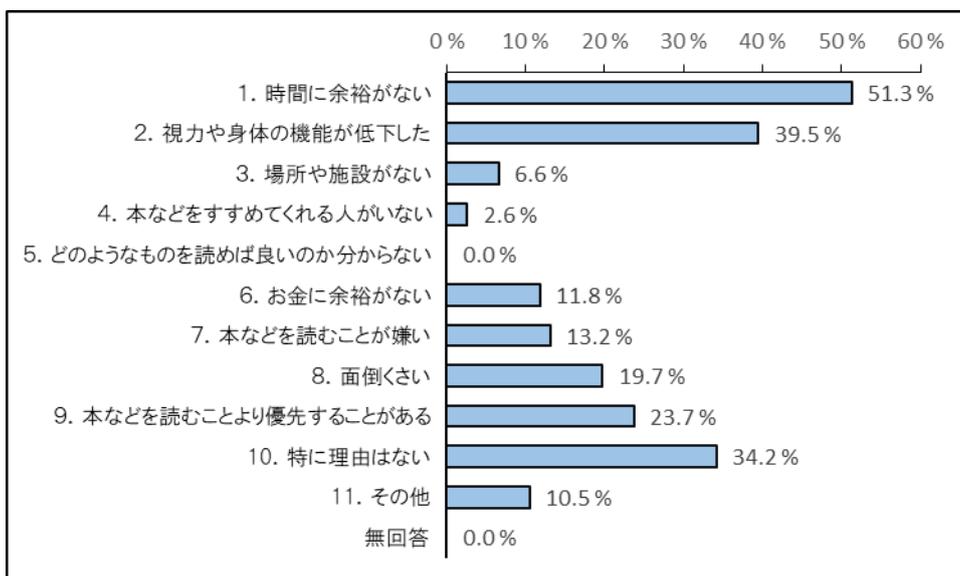
「新聞を読む」が最も多く57.1%、次いで「雑誌を読む」が53.5%、「本を読む」が52.2%の順となっています。



問 あなたが、本などを読まなかった理由は何ですか。(いくつでも)

※過去1年間で本などを読まなかった方 (回答者数=76)

本などを読まなかった理由について、「時間に余裕がない」が最も多く 51.3%、次いで「視力や身体の機能が低下した」が 39.5%、「特に理由はない」が 34.2%の順となっています。



Ⅱ 子どもの読書に関するアンケート調査

(1) 調査の目的

本調査は、第3次子ども読書活動推進計画（令和2年度～6年度）の達成状況を把握し、今後の読書活動の施策の方向性を検討するうえでの参考資料として利用します。

(2) 調査対象

市内における保育園の年長児保護者 423人

市内小学校2年生 269人

市内小学校5年生 299人

市内中学校（公立）2年生 336人

市内高等学校 2年生 310人

(3) 調査期間

令和6年1月15日から1月25日まで

(4) 調査方法

WEB 配布・回収による WEB 調査方法

（保育園の年長児保護者の一部は紙媒体調査票で回答）

(5) 回収状況

調査対象者		対象者数	回答者数	回収率
市内全保育園	年長児保護者	423	*277	65.5%
市内全小学校	2年生	269	269	100.0%
	5年生	299	275	92.0%
市内全中学校 (公立)	2年生	336	320	95.2%
市内高等学校	2年生	310	309	99.7%
合計		1,637	1,450	88.6%

【参考】紙媒体回収数：52票

(6) アンケート調査の主な結果 (令和元年度に調査した前回調査と比較)

※最も高い割合のものを で網掛けしています。

1 年長児保護者

問 お子さんは本に興味や関心がありますか。

(回答者数=277人)

「興味や関心がある」「どちらかといえば興味や関心がある」と回答した割合は、前回調査では94.1%であったのに対し、今回調査は82.0%と高水準ですが、低くなっています。

回答	今回結果		前回調査	
	件数	構成比	件数	構成比
1. 興味や関心がある	111	40.1%	177	58.0%
2. どちらかといえば興味や関心がある	116	41.9%	110	36.1%
3. どちらかといえば興味や関心がない	41	14.8%	16	5.2%
4. 興味や関心がない	9	3.2%	2	0.7%
回答者数 (N)	277	100.0%	305	100.0%

問 お子さんに本を読んであげたり、一緒に本を読んだりしていますか。

(回答者数=277人)

今回調査で「ほとんど読んでいない」と回答した割合は22.4%で、前回調査で「読んでいない」と回答した割合は、4.2%でした。読んでいない割合が高くなっています。

回 答	今回結果		前回結果	
	件数	構成比	件数	構成比
1. 毎日読んでいる	43	15.5%	42	13.6%
2. 2～3日に一度くらい読んでいる	77	27.8%	54	17.5%
3. 1週間に一度くらい読んでいる	95	34.3%	91	29.5%
4. ほとんど読んでいない	62	22.4%	—	—
(時々読んでいる) ※	—	—	108	35.1%
(読んでいない) ※	—	—	13	4.2%
回答者数 (N)	277	100.0%	308	100.0%

問 お子さんがいくつくらいの頃から本を読んであげていますか。

※お子さんに本を読んであげたり、一緒に本を読んだりしている方（回答者数=215人）

今回調査、前回調査とも「ブックスタート(4か月児健康診査時)から」と回答した割合が一番高く、46.5%、40.8%でした。

回 答	今回結果		前回結果	
	件数	構成比	件数	構成比
1. 生まれた頃から	52	24.2%	38	13.0%
2. ブックスタート（4か月児健康診査時）から	100	46.5%	119	40.8%
3. 1才頃から	32	14.9%	57	19.5%
4. 2才頃から	4	1.9%	17	5.8%
5. 3才頃から	4	1.9%	26	8.9%
6. 4才頃から	4	1.9%	5	1.7%
7. 今年度に入ってから（4月以降）	1	0.5%	2	0.7%
8. 覚えていない	18	8.4%	28	9.6%
回答者数 (N)	215	100.0%	292	100.0%

問 本を読むことは、お子さんの成長に必要なことだと思いますか。

（回答者数=277人）

今回調査、前回調査とも「必要である」と回答した割合が一番高く、79.8%、72.5%でした。

回 答	今回結果		前回結果	
	件数	構成比	件数	構成比
1. 必要である	221	79.8%	221	72.5%
2. どちらかといえば必要である	56	20.2%	83	27.2%
3. どちらかといえば必要でない	0	0.0%	0	0.0%
4. 必要ではない	0	0.0%	1	0.3%
回答者数 (N)	277	100.0%	305	100.0%

2 小中高校生

問 どのくらい本を読んでいますか。

(回答者数=1,173人)

前回調査と比較すると、「毎日読んでいる」と回答した小学5年生が43.0%から26.5%と低くなっています。また中学2年生は14.2%から24.4%と高くなっています。

回 答	今回結果								前回結果							
	件数				構成比				件数				構成比			
	小学 2年	小学 5年	中学 2年	高校 2年												
1. 毎日読んでいる	107	73	78	13	39.8%	26.5%	24.4%	4.2%	123	147	47	27	42.4%	43.0%	14.2%	10.0%
2. 2～3日に一度くらい読んでいる	85	83	67	21	31.6%	30.2%	20.9%	6.8%	93	103	61	18	32.1%	30.1%	18.4%	6.7%
3. 1週間に一度くらい読んでいる	50	55	51	53	18.6%	20.0%	15.9%	17.2%	52	51	59	30	17.9%	14.9%	17.8%	11.2%
4. ほとんど読まない	27	64	124	222	10.0%	23.3%	38.8%	71.8%	22	41	165	194	7.6%	12.0%	49.7%	72.1%
回答者数(N)	269	275	320	309	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	290	342	332	269	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 「ほとんど読まない」と答えたのはどうしてですか。(いくつでも)

※「ほとんど読まない」と回答した方 (回答者数=437人)

前回調査と比較すると、「テレビやゲームのほうがおもしろいから」と回答した小学5年生が24.4%から57.8%と高くなっています。

回 答	今回結果								前回結果							
	件数				構成比				件数				構成比			
	小学 2年	小学 5年	中学 2年	高校 2年												
1. テレビやゲームのほうがおもしろいから	13	37	83	92	48.1%	57.8%	66.9%	41.4%	12	10	112	62	54.5%	24.4%	67.9%	32.0%
2. インターネットやSNSのほうがおもしろいから	1	19	82	118	3.7%	29.7%	66.1%	53.2%	1	3	90	51	4.5%	7.3%	54.5%	26.3%
3. まんがや雑誌のほうがいいから	5	16	52	65	18.5%	25.0%	41.9%	29.3%	1	11	79	70	4.5%	26.8%	47.9%	36.1%
4. 本を読むのがめんどうだから	1	16	45	49	3.7%	25.0%	36.3%	22.1%	2	10	69	42	9.1%	24.4%	41.8%	21.6%
5. 部活などで忙しいから	—	—	29	124	—	—	23.4%	55.9%	—	—	84	113	—	—	50.9%	58.2%
6. 塾や習い事で忙しいから	2	12	29	39	7.4%	18.8%	23.4%	17.6%	3	12	59	29	13.6%	29.3%	35.8%	14.9%
7. 読みたい本がないから	2	19	54	51	7.4%	29.7%	43.5%	23.0%	6	14	76	49	27.3%	34.1%	46.1%	25.3%
8. 字を読むのが苦手だし、疲れるから	1	10	31	22	3.7%	15.6%	25.0%	9.9%	3	10	59	30	13.6%	24.4%	35.8%	15.5%
9. 本を読みたいと思わないから	6	29	59	63	22.2%	45.3%	47.6%	28.4%	8	17	96	54	36.4%	41.5%	58.2%	27.8%
10. その他	0	4	6	6	0.0%	6.3%	4.8%	2.7%	0	3	8	7	0.0%	7.3%	4.8%	3.6%
回答者数(N)	27	64	124	222	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	22	41	165	194	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 本を読むことは大切だと思いますか。

(回答者数=1,173人)

前回調査と変わらず、今回調査もすべての学年で「大切だと思う」と回答した割合が一番高くなっています。

回 答	今回結果								前回結果							
	件数				構成比				件数				構成比			
	小学 2年	小学 5年	中学 2年	高校 2年	小学 2年	小学 5年	中学 2年	高校 2年	小学 2年	小学 5年	中学 2年	高校 2年	小学 2年	小学 5年	中学 2年	高校 2年
1. 大切だと思 う	210	166	168	183	78.1 %	60.4 %	52.5 %	59.2 %	199	230	150	166	68.6 %	67.3 %	45.6 %	61.9 %
2. どちらか といえば大 切だと思 う	50	91	124	113	18.6 %	33.1 %	38.8 %	36.6 %	76	96	148	93	26.2 %	28.1 %	45.0 %	34.7 %
3. どちらか といえば大 切だと思 わない	3	9	8	8	1.1 %	3.3 %	2.5 %	2.6 %	14	12	11	3	4.8 %	3.5 %	3.3 %	1.1 %
4. 大切だと思 わない	6	9	20	5	2.2 %	3.3 %	6.3 %	1.6 %	1	4	20	6	0.3 %	1.2 %	6.1 %	2.2 %
回答者数 (N)	269	275	320	309	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	290	342	329	268	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%

6 グループヒアリング調査の概要及び結果

(1) グループヒアリングの目的

アンケート調査により、市民の生涯学習に対する意識の傾向を把握しました。

今回行ったグループヒアリングは、現に生涯学習活動を実践している団体などに対してヒアリングを行い、現状の具体的な問題点や課題を把握することを目的として実施しました。

(2) グループヒアリングの対象

- ①生涯学習サークルの代表者（江南市公民館フェスタ実行委員会役員）
- ②小・中学校教員の代表者（校長会代表者）
- ③文化団体の代表者（文化協会加盟団体）
- ④スポーツ関係団体の代表者（スポーツ協会加盟団体）
- ⑤ボランティア団体などの代表者
（市国際交流協会、図書館ボランティア）
- ⑥若者の代表者（二十歳の集い実行委員会）
- ⑦子育て関連団体の代表者（KONAN 子育て委員会）

(3) グループヒアリングの主な結果

【①生涯学習サークルの代表者】

区分	内容
生涯学習活動における課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化や、会員数の減少が問題。 ・活動発表できる機会や施設が少ない。 ・サークル活動の興味がある方に、情報が届いていないと感じる。
生涯学習を推進していく上での市への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の講座をきっかけに入会する方もいたので、また開催してほしい。 ・各公民館のサークル冊子を作成し、団体のPRができるとうい。 ・市民に情報が届いていないので、アピールをお願いしたい。

【②小・中学校教員の代表者（校長会代表者）】

区分	内容
生涯学習活動における課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生ボランティアの募集は北部の特定の機関が多く、北部地区の生徒はボランティアが盛んなイメージだが、南部地区の生徒は参加が難しい。 ・学校が住宅街にあるため、部活動（吹奏楽や運動部）の音で近隣住民から苦情をいただくことがある。 ・学校教育の延長に生涯学習がある。生涯学習と学校教育が離れすぎていた。
子どもの読書活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の時期は読み聞かせが多く読書する児童が多いが、中学生になると読み聞かせがなくなり、またスマートフォンに時間をとられ、読書をする生徒が減少する。
学校施設開放における課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・第3土、日曜日は体育館を開放しているが、部活動の数が多いため、部活動の練習日が減ってしまった。 ・普通教室を年に数回貸しているが、生徒の荷物や学校備品の管理が課題と感じる。
生涯学習を推進していく上での市への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が将来、地域に貢献できるような仕組みづくりをお願いしたい。 ・楽器が演奏できる施設（場所）があると、吹奏楽部が活動しやすい。 ・図書館分室（古北にじいろ会館）や歴史民俗資料館等、良い施設だが来館者が少ないように感じる。既存施設の周知をお願いしたい。

【③文化団体の代表者（文化協会加盟団体）】

区分	内容
生涯学習活動における課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設に活動できる場がない。 ・会員の高齢化や会員数の減少が課題だ。 ・会員数の減少により、伝統文化の衰退が懸念される。
生涯学習を推進していく上での市への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・市内にて、活動発表の場を設けてほしい。 ・若い方の参加を促すような SNS 等での情報発信や、魅力的な企画をお願いしたい。 ・小中学校に伝統文化を学ぶ部活動があるとよい。また、広報などで文化への関わり方を発信してほしい。

【④スポーツ関係団体の代表者（スポーツ協会加盟団体）】

区分	内容
生涯学習活動における課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・練習場所が不足している。 ・会員数、加盟チーム、指導者の減少や高齢化により、会が継続できるか不安である。 ・小学生の入会者が増え、指導者不足の状態になっている。 ・指導者育成システムが確立していない。
生涯学習を推進していく上での市への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・市の管理施設は、早朝や夜間に利用できない。何時でも利用できるとよい。 ・夜間学校開放の柔軟な対応をお願いしたい。

【⑤ボランティア団体等の代表者（市国際交流協会、図書館ボランティア）】

区分	内容
生涯学習活動における課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズが変化しており、必要とされている支援に関するノウハウがない。 ・支援の情報が届いていない方には、支援ができていない。 ・音訳図書や対面朗読室の認知度が低い。必要な方に情報が届いていない。 ・活動時間帯が日中なので、ボランティアに興味があっても若い方は参加が難しい。
生涯学習を推進していく上での市への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアでは限界がある。行政が行うべき事業は、行政が行ってほしい。 ・イベント等でボランティア体験を実施し、若い方にも興味を持ってもらえるようにしてほしい。 ・視覚障害の手続きの際に、音訳図書を含めた支援のチラシ等渡せるとよい。

【⑥若者の代表者（二十歳の集い実行委員会）】

区分	内容
生涯学習を推進する上での市への要望	<ul style="list-style-type: none"> • 仕事に必要な技能・知識の講習会や「学び直しの集い」等を夜間に開催してほしい。 • 駅に、目に留まるようなポスターを掲示してほしい。 • 広報やチラシは見ない。市公式 LINE や SNS は存在を知らなかった。情報を届けるために、まずは市 LINE 登録者を増やす必要があると思う。

【⑦子育て関連団体の代表者（KONAN 子育て委員会）】

区分	内容
生涯学習活動における課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> • イベント等での託児が少ない。 • 子どもの急な発熱等で参加できなくなることもある。
生涯学習を推進する上での市への要望	<ul style="list-style-type: none"> • 親子で参加できるイベント、講座等を増やしてほしい。 • 市で開催しているイベントについて、あまり知らなかった。興味のある人の目に留まりやすい周知をしていただけるとよい。 • 同じ内容を複数回開催してもらえると、参加できるチャンスが広がると思う。 • 子育て世代が参加しやすい時間帯に開催するとよい。 • 会議を行う場所が少ない。ボランティアルームのような場所があるとよい。

第3次江南市生涯学習基本計画

令和7年3月

発行 江南市

〒483-8701 愛知県江南市赤童子町大堀 90 番地

TEL : 0587-54-1111

FAX : 0587-56-5517

編集 江南市教育部生涯学習課
